NUEVA

ヌエバでチャンピオンを目指せ!!



国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球



日本ハンドボール協会検定球



本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

さらなる普及・発展を目指して



(財)日本ハンドボール協会常務理事　角　紘昭（普及・指導担当）

比較的低温と言われたこの夏も、シーズン真っ盛りのハンドボール界では暑い夏を過ごされた選手諸君や関係者の方も多かったと思います。その中でも普及・指導部が担当している、マスターズ大会、ビーチハンドボール、小中学生の全国大会やブロック大会、学校体育ハンドボール研究集会等々盛況で終わることが出来ました。関係者の方々のご努力のおかげと感謝申し上げます。

特に、小学生、中学校の大会は、ハンドボールというスポーツ文化を次世代に伝え、発展させてゆく大切な場面だと考えています。

その視点でこれらの大会を見てみますと、

◎訓練された選手としての能力・技術は個々の身体的な発達に合っているか、◎ゲーム展開に関する選手個々の理解は十分なされているか、◎ゲームの中で下される判定は選手を十分納得させているか、◎大会参加の態度の訓練は…、◎指導者としての態度は、指示は…

などの点を、指導者として、ハンドボール関係者として今一度振り返ってみる必要があると感じました。

今回、普及・指導部として機会をいただきましたので、ここで、普及指導事業の一部を紹介いたします。

昨年から始まりました公認Ｊ級指導員養成講座は、各県協会のご理解を得て本年度も順調に開催されています。この２年間で約700名の公認Ｊ級指導員が誕生することになります。日頃、子どもたちを直接指導されておられる数多くの方が、その熱意を表すものを求めておられたということだと捉えております。この資格は６時間という短期間で取得可能となっていますが、公認Ｊ級指導員規程のねらいにもありますように、資格取得後、常日頃の研修を努力義務として求めております。

具体的には、①県協会が主催する実技・指導者研修会、②中学校体育連盟（ハンドボール部）等が主催する実技・指導者研修会、③ＮＴＳ各トレーニング、④日本協会が主催する各種講習会、シンポジューム等々への参加による研修が考えられます。この際には手帳に記録として留め、主催者の証明を得ておくことが必要です。事務的な手続きではありますが、せっかくの熱意を何らかの形として残すためにも必要なことと思います。

普及として、その他には小学校の授業実践の中で、「ゲーム、ボール運動」の教材としてのハンドボールの有効性をアピールしようとしています。特に学校関係者の方は、この面でも研究集会への参加や、実践研究報告を寄せていただきたいと思っています。

また、ブロックを中心とした小学生チームの交流大会の促進も進めています。これらの交流大会への参加が年々盛んになってくると、ややもすると参加チーム数を制限する傾向が見られます。小学生時期はできる限り自由に参加させ、多くのゲームに触れさせることが必要かと思います。規模が大きくなれば、さらに細かく分けて実施する等の工夫も必要です。

15歳以下の普及については、これまでは中学校に全て任せてきたのが現状です。ところが、近年、中学校のハンドボールチームの減少が目立ってきました。日本中学校体育連盟では２校にまたがる合同チームでの参加や外部コーチ導入を認め、活動の活性化を図る工夫をしています。日本協会としましても、学校単位での活動への援助と共に、学校のワクでつかみ切れない部分を「Ｕ－15（15歳以下)」というカテゴリーで考え「Ｕ－15ブロック大会」を進めながらこの年代層での普及を図ろうと考えています。

特別対談

塩川正十郎財務大臣・福井俊彦日本銀行総裁がハンドボールを語る



「スポーツは人生を豊かにしてくれる」（塩川大臣）

「ハンドボールは素晴らしい」（福井総裁）

塩川　正十郎（しおかわ　まさじゅうろう）



大正10年10月13日
　東大阪市生
昭和14年３月
　大阪府立八尾中学校卒業
昭和19年３月
　慶應義塾大学経済学部卒業
昭和39年６月～昭和41年12月
　布施市助役
昭和42年１月
　衆議院議員初当選
　以降、内閣官房副長官、運輸大臣、文部大臣、内閣官房長官、自治大臣・国家公安委員会委員長及び自民党・税制調査会長、総務会長等を歴任
平成13年４月　財務大臣就任

福井　俊彦（ふくい　としひこ）



昭和10年９月７日　大阪市生
昭和29年４月
　大阪府立大手前高等学校卒業
昭和33年３月
　東京大学法学部卒業
昭和33年４月　日本銀行入行
昭和45年４月　パリ駐在
昭和52年５月
　総務部企画課長
　以降、高松支店長、大阪支店副支店長、総務局次長、人事局次長、調査統計局長、営業局長、総務局長、日本銀行理事、日本銀行副総裁、㈱富士通総研理事長、経済同友会副代表幹事を歴任
平成15年３月20日　日本銀行総裁就任

現在、日本のリーダーとして第一線で活躍されている塩川正十郎財務大臣と福井俊彦日本銀行総裁がハンドボール界のＯＢであることを知る人は多くありません。塩川大臣は慶應義塾大学ハンドボール部で、福井日本銀行総裁は東京大学ハンドボール部で青春の日々をハンドボールと共に過ごされました。平成15年８月27日、ホテルオークラ、桜の間において、ご多忙中のお二人にハンドボールに対する思いと、ハンドボール界 に対するエールを熱く語っていただきました。

日本協会からは渡邊会長、大西専務理事、川上常務理事が同席、聞き手は杉山茂日本ハンドボール協会アドバイザー。

杉山氏から両氏の名前が掲載されている当時の学生リーグ・パンフレットが贈呈され、お二人とも懐かしそうにページをめくりながら当時に思いをはせ、対談が始まりました。

渡邊会長　ハンドボールをメジャーにするためには、ハンドボールＯＢの方にハンドボールはこんなに楽しいということをＰＲしていただきたい。金融の大御所で有られる塩川大臣と福井総裁が共にＯＢで有られますので、大輩達に元気の出るような話をしていただければと企画致しました。よろしくお願い致します。

杉山氏　お二人は、お互い学生時代にハンドボールに携わっていたと言うことはご存じだったのでしょうか。

塩川大臣　この企画で初めて知りました。いや、びっくりしましたね。福井総裁とハンドボールの話をしたことは全くありませんでした。

福井総裁　私もそうです。大臣が、ハンドボールをなさっていたことは全く知りませんでした。今回の企画で初めて聞いて、大先輩なのだと知ったわけです。

杉山氏　ハンドボールを始められたきっかけは何でしょうか。

塩川大臣　旧制中学の４年生まではサッカーをやっていたんですよ。でも、受験のために部活動はやめました。慶應大学に入学して、サッカー部に入ろうかと思ったのですが、当時は部員が200名を超す大所帯でやめました。ちょうど、その当時ドイツのオットー大使がハンドボールを持ち込んで、慶應大学にハンドボール部ができ、同僚に誘われて入部したのが本科１年の時でした。オットー大使には、一度試合場（多摩川オリンピア）に来られたときにお目にかかったことがあります。戦中もリーグ戦をしていましたが、おまえらいつまでやって居るんだ、と言われ、昭和18年春で幕を閉じ、その年12月１日に入隊致しました。

福井総裁　私は正式に運動部に入ったのは大学に入ってからです。高校までは草野球をやっていました。大学では本格的に運動をやろうと、サッカーにするか、ラグビーにするか迷っていたときに、後に三菱商事で活躍された河内氏に誘われて入部しました。

２年生以降の試合にはほぼ全て出場しました。活動の中心はリーグ戦でしたが、京大との定期戦も必死で戦いましたね。当時は日体大、芝浦工大が強く、芝浦工大の高島監督にコーチを依頼したり、日体大の合宿に参加したりといろいろお世話になりました。日体大の合宿はきつかったけれど、ためになりました。

ちょうど11人制から７人制への移行の時期で、４年生の最後のシーズン終了後、東大有志で７人制大会（大阪）に参加したこともあります。グランドでプレーするのと、フロアーでプレーするのとでは大違いで、７人制ではケガばかりでした。

杉山氏　ハンドボールは、その後の生活にどのように生かされていますか。

塩川大臣　体で覚えたことはいつまでも忘れませんね。テクニックは忘れてしまっても、学生生活のことは忘れませんし、スポーツは人生を豊かにしてくれたと思います。

福井総裁　ハンドボールというスポーツは、スポーツの中でも厳しいものだと思います。本当に実力をつけなければならないし、たまたま勝つと言うことはない。一人が頑張ってもだめだし、チームとしてのコミュニケーションがとても大切です。そのためか、ハンドボーラーには謙虚な人が多いですね。

杉山氏　最近はハンドボールとどの様に、関わっておられているでしょうか。

塩川大臣　弟が八尾高校でハンドボールをやっていた関係で７人制になってからもボールは握ったことはありますが、代議士になってからはハンドボールの会合に出るくらいです。ただ、現在も10万人会のサポート会には入会していますよ。

福井総裁　僕は今でもハンドボールと深い関わりを持っています。現在でも東大の現役からも情報が入ってきますし、前の協会専務理事の大野氏ともつき合いがありますから。

杉山氏　ハンドボールの現状は、必ずしも芳しくありません。メジャーなものにするためにはどうすればよ

いでしょうか。

福井総裁　僕とハンドボールの初めての接点は学校での授業です。ハンドボールは見るよりもやった方がずっと楽しい。学校でハンドボールが出来るようにすることが大切でしょう。そして、ナショナルチームがオリンピックに出場し、かつ成果を上げること。トップクラスが夢を実現することが大切です。草野球も楽しいが、ハンドボールはもっと楽しい。草野球と同じようにハンドボールも原っぱがあればできるんですよ。

塩川大臣　同感です。トップが強くなり、マスコミに乗らなければならない。実際に普及していないのだから、はじめは学校体育に入れていくことが大切だと思う。ハンドボールには魅力があるんだから。例えば、フォーメーションが決まって、ディフェンスをサッと抜いたときの快感は最高だよ。

　技術的にはプロを作ることも意味がある。女子柔道の今あるのはミキハウスが活動を始めたことがきっかけ。プロは選手ばかりでなくコーチについてもいえる。ラグビーなどでは会社が社員として卒業生を就職させて部活動を見させている。ハンドボールは教えてもらえば、さらに上達するスポーツですから、コーチのプロ化は意味がある。

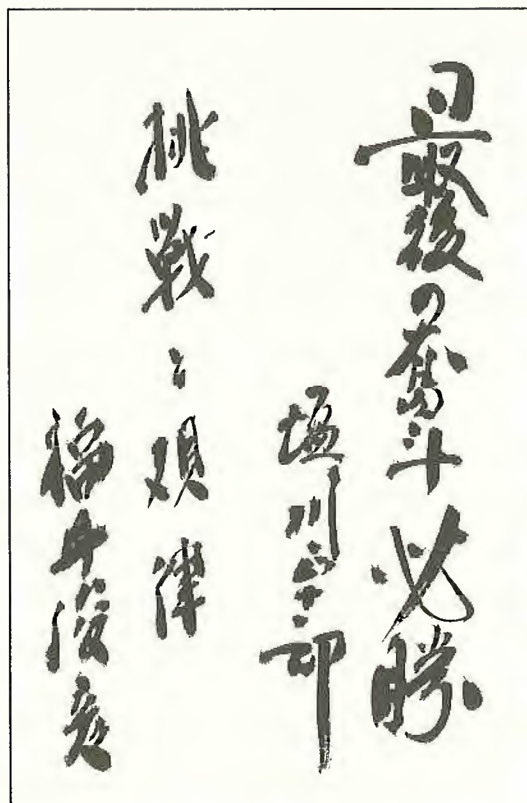
杉山氏　スポーツと青少年問題についてはどのようにお考えでしょうか。

塩川大臣　スポーツは学校教育中心じゃない方が良い。地域ぐるみ、ヨーロッパのような民間のクラブを育成する方向が大切です。

福井総裁　ハンドボールは格闘技。体を動かすことは大事だし、スポーツを通して生存競争の厳しさを身につけることが出来る。クラブの役割は青少年がスポーツをしたいときに出来る環境を作り、青少年一人一人がスポーツしたくなる様にし向けることを、期待されているのではないでしょうか。

杉山氏　国家予算とスポーツの関係はどうすべきでしょうか。やはり、スポーツの資金は受益者負担が原則でしょうか。

塩川大臣　クラブはＮＰＯ方式でやることも良いし、柔道の講道館は財団法人化している。クラブには財政的補助をするのではなく、税制面で配慮をして育成してゆけばよい。現状のように、中央からの補助金に頼っているうちは、協会が利権に走りがちになり、健全な組織は育たないと思う。スポーツは、統制されるものではなく、あくまで自主意識で動くものなんです。



塩川財務大臣と福井日銀総裁から色紙にメッセージをいただきました。

福井総裁　私も大臣と同じ意見で、スポーツの場をコミュニティーの中に作ることが大切だと思います。スポーツは、国家が管理すべきものではないのです。スポーツに意味を感じている民間（企業）が必要に応じて運営すべきものです。国が予算を用意してスポーツを青少年にスポーツをさせれば良い、というものではないと思います。

杉山氏　最後にオリンピック予選に臨むナショナルチームへのメッセージをお願い致します。

福井総裁「最後まであきらめない。」誇りを持って、堂々と最後まで戦ってほしい。

塩川大臣　「もう一踏ん張り、一踏ん張り。」みんな苦しいんだ。どっちも苦しいときに、グッと気持ちをやり返すことで道が開かれるんだ。それにつきる。

大西専務理事　本日はご多忙中の所、本当に有難うございました。本日は楽しい話から、スポーツの発展のための話まで、幅広いご意見を賜り、また勇気を頂いたように思います。ハンドボールの先輩にこのような素晴らしい日本のリーダーがいらっしゃることは頼もしく、誇りに思っております。お二人の今後のご活躍を我々も応援しております。今後もハンドボール競技の応援、ＰＲをよろしくお願い致します。

第14回世界女子ジュニア選手権大会報告

見えてきた、世界への可能性

団長　井　薫（日本協会アドバイザー、熊本県協会）

第14回世界女子ジュニア選手権大会は、８月４日から17日まで中欧マケドエアの首都スコピエとゲブゲリア、オフリドの３会場で開催された。旧ユーゴスラビアを構成した６つの共和国の一つで、最南端に位置しギリシャ、ブルガリア、アルバニア、セルビアと国境を接するが、1990年代のユーゴ紛争では幸いにも、このマケドエアだけが戦火に巻き込まれることなく独立を果たした国でもある。

戦いの中から

予選リーグ、順位決定戦の８ゲームを３勝３敗２分けで、20カ国参加の17位の成績。いろんな見方はあると思うが、団長として良くやったと評価したい。

戦績の詳細な報告は別項に任せるが、まず引き分けの対スウェーデン戦、私と北野コーチと高校生の久染選手は当日到着のため報告を受けることになったが、残り１分を切って１点リードと勝てるチャンスが十分あったゲームだったとか。永くナショナルチームの強化に携わった私としては北欧諸国の大きき、力強さを肌で感じているだけに、勝てたゲームと残念がるスタッフの意気込みに驚かされた。

同様に17～18位決定のセルビア・モンテネグロ（旧ユーゴ）戦、疲労の色濃い８戦目の最終戦も、スタートからいきなり３点を失う劣勢から、持ち直し後半の大切なところでのＧＫのファインセーブ連発でしのいでの勝利、いかに今回国内事情等で調子を落とし気味の相手とはいえ会心のゲーム運び、欧州の一角に勝利した瞬間はスタンドにいながら不覚にも目頭が熱くなった。満員のスタンドも拍手と「ヤーパン」「ヤーパン」の連呼。もちろん同格のブラジルとの引き分け、さらには練習ゲームで勝ったコンゴに３点差、ポルトガルとの２点差の敗戦など、このクラスとの熾烈な戦いに勝利してこそ上位進出の展望が開けるわけだが、その可能性を十分感じさせる大会だった。

堀田監督、小林、北野両コーチのスタッフ、限られた戦力の特徴を把握しての起用、相手に対しての攻防の使い分け、特に小林コーチのディフェンスラインの選手への徹底指示、抱負な自身のキャリアから要所に適切なアドバイスをおくる堀田監督、そして第12回大会の山下団長あたりからも提言があり今回実現した北野香代女子コーチの、男性には分からない選手の身体の調整や、心理面への気配り等、初陣のスタッフとしては見事な采配であったし、選手諸君もかんばり、厳しい指示にも良く応えてくれた。

アンラッキーもあった、今回、予選リーグでどうしても勝ちたかったポルトガル戦、今年の２月に男子の世界選手権大会を開催するなど、このところ急速にハンドボール熱の高まりで力をつけて来たポルトガルチーム、ゲームはほぼ互角に展開したが、マケドニアのレフェリーの微妙なジャッジに日本のスタッフは大不満。残り５分からの日本の速攻は、相手の退場、７ｍＴと思える場面の連続で、会場もブーイングの連続。ことごとく逆の判定が続き実に悔しい敗戦だった。

大会トピックス

予選リーグ３戦目のウルグアイ戦、日本のスローオフで始まるゲーム。レフェリーのゲーム開始の笛が鳴った瞬間に、オフィシャル席から笛が鳴りゲームは中断され、両チームの選手と会場の総ての人が起立して黙祷を行った。それはこの朝、朝食前に日課のジョギングの途中に心臓マヒで急逝したロシアのレフェリーを悼む黙祷で、34才、二人の子供さんのいる父親で前日まで元気にレフェリングしていただけに、会場は悲しみに包まれた。

大会はロシアが優勝。ハンガリー、ノルウェー、クロアチア、ドイツが上位を占めたが、このレベルになるとナショナルチームかとも思える内容、その中でもロシアのボレノバ・エレナ選手は198cmに92kgの超大型でありながら、敏捷性もあり、これからの世界の女子界で話題を一人占めしそうな選手だった。

街中に大会のポスターが貼られ、大会の記念切手やテーマソングが会場に流れ、ハンドボールが最も人気のスポーツということで、テレビ中継もされ大会は盛り上がった。

ジュニアの強化が即ナショナルの成績につながる指摘は久しいが、まさに実感で選手選考と国内の協力体制の整備と共に、アジアのレベルアップのために、アジア予選後のしかるべき時期に代表の３カ国で本大会に向けたトレーニ



ングマッチを企画する事を提言したい。

今後への課題、謝辞

昨年7月、ヨルダンでの厳しい予選で、アジアからの出場権をつかんでくれた、井上、平賀、堀田の前スタッフが苦労して蒔いた種が芽吹き始めた。これからどんな花を咲かすのか楽しみにしたいと思う。しかし、今回スタッフは、やや怖いもの知らずの部分もあったことも事実。世界は広く技術、戦術の向上のスピードも速いことを自覚して、それぞれに研鑽に努めてもらいたい。

最後に今回の遠征に際し、ご協力とご理解をいただいた、各選手の所属チーム及び関係者の皆様にお礼を申し上げると共に、トレーナーとして参加をいただいた、飯田氏（たちばな通り整骨院）の文字通り献身的な処方と、通訳、総務の笠原さん（エモック）の業務を超えた支えに、団長として心からの謝意を述べ報告としたい。

第14回世界女子 Jr. 選手権大会に参加して

監督　堀田　敬章（北国銀行）

今大会は8月4日より17日まで、マケドニアのオフリドを中心に、首都スコピエ、ゲブゲリアの3会場にて行われ、日本はギリシャ国境近くのゲブゲリアにてAグループで予選を戦いました。7月27日よりマケドニア入り。ストュルーガ他でトレーニングマッチを組み、1勝3敗ながら、手応えを感じての大会入りでした。

予選リーグ

初戦はスウェーデン。前回大会は1点差だったこともあり、選手は非常に気合いが入っているのが感じられた。しかし立ち上がりからなかなか攻撃にリズムがとれず、DFで粘り、何とか2点差で折り返し。後半も攻撃がかみ合わず追う展開だったが残り10分にやっと逆転。2点リードした後はシーソーゲーム。ラスト90秒からシュートまでいけずドロー。

2戦目はクロアチア。立ち上がりは互角の攻防だったが、予想を超えるスピードに圧倒され、中盤以降得点が止まる。後半3－2－1DFから速攻やカットイン等で追いすがるも、最後まで攻撃の手を緩めないクロアチアに突き放された。

3戦目はウルグアイ。固い立ち上がりも5連取、しかしその後4連取されるなど思うようにリードを広げられず。後半は5連取して主導権を握ると、また9連取して試合を決めた。

4戦目はポルトガル。両国とも上位リーグ行きを懸けての戦い。立ち上がりは固く追う展開もカットインによる得点で落ち着くと、12分には逆転。その後一進一退で同点でハーフタイム。後半立ち上がり、4連取されたが44分に同点とする。しかし、そこからまた5連取され、速攻等での追い上げ及ばず、無念のタイムアップ。

順位決定リーグ

スコピエに移動しての順位決定リーグ。初戦はコンド。先のトレーニングマッチでは38－32と勝利を収めていたが…。立ち上がりサイドシュート等で4－1とリードするも厳しい判定で退場者を出し逆転をゆるす。後半も強引な突進プレーを守ることができず、また入れ替わりの退場で攻撃のリズムをとれぬままリードを広げられる。速攻等で追い上げるも届かず。得点チャンスの時に信じられぬミスをして逆に失点を許すという、目を覆いたくなるようなプレーが多発した。

続いてアルジェリア戦。アフリカ代表アンゴラの急遽辞退による繰り上げ出場のチーム。先制を許すも4連取で主導権を握ると、その後もロングやポスト、速攻等で効果的に得点を重ねる。後半もリードを広げ危なげなく勝利をものにした。落ち込みかけていた雰囲気にストップをかけることができた。

リーグ最終戦はブラジル。このチームにはトレーニングマッチにて23－27と敗れている。その借りを返すべく試合に臨んだが…。互いに重い立ち上がりで攻めあぐむ、ブラジルのロング等でリードを許す。後半逆転チャンスにことごとく失敗し、重苦しい雰囲気に。残り3分速攻でついに逆転、その後退場7mTを外し、残念ながら勝ちきれず、17位－18位決定戦行きが決まった。

17位－18位決定戦

トレーニングマッチ時、滞在先のオフリドに戻り最終戦。対戦相手はセルビアモンテネグロ（ユーゴスラビア）。

センターからミドルが決まり先制、サイド等でリードするも一進一退が続き2点リードでハーフタイム。後半すぐに同点とされるが7mTやロングで突き放す。3点差リードから抜け出せず、追い上げを許すが、GKの攻守やサイドからの得点で何とか逃げ切った。

この試合、選手、スタッフ全員がヨーロッパの国への勝利に燃え、最後まで粘り通して感動のフィナーレとなった。

総括

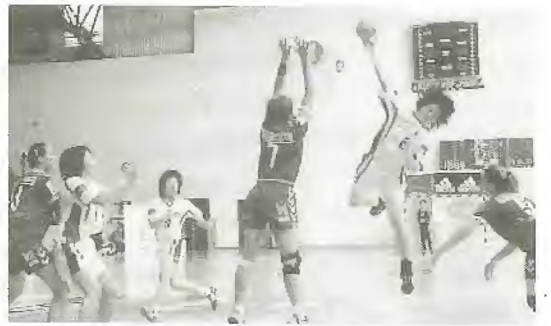
最終順位は17位。20チーム中でこの成績には私自身の甘さが節々に出てしまい、選手のパフォーマンスを十分発揮させることができず大変申し訳なく思っております。大会通算成績は3勝3敗1分。ポイントで勝ちきれず、また勝てる試合をものにできず、結果的に上位リーグで戦える

可能性が十分だっただけに、残念な気持ちでいっぱいです。

しかし、このチームがチームらしくなってきたのがポルトガル戦くらいからで、やはり強化期間（選考合宿を含め国内合宿期間10日）が少なすぎるのは間違いありません。

大会のベスト４は別格（ロシア、ハンガリー、ノルウェー、クロアチアはナショナルチームの戦いを観ているよう）だったが、ヨーロッパのチームでもナショナルクラスの攻防に比べ、Ｊr．クラスはＤＦが甘いことや、プレーがまだまだこなれてないと感じました。逆にボールの扱い（パスキャッチ等のハンドリング）は日本のレベルが低いのが明らかでした。しかし、上記にも書いたようにチャンスは十分に感じられた大会だったので、今後の日本が世界で戦うためには、ぜひＪr．（小・中から）クラスの強化にもっともっと力をいれられることを、日本全体で真剣に考えていかねばならないと思います。私自身も今回の経験を生かし、チームそして日本のために、これからも努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、今大会参加のめにご協力いただいた関係各位の皆様にはいろいろとご指導、ご配慮いただき本当にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。



試合結果：トレーニングマッチ（1勝3敗）

■7／28　●日本　２８－３５　マケドニア
得点者：若松・樋口５、内富・早川４、渡部３、野路・東濱２、宮前・仲宗根１

■7／29　●日本　２６－２８　マケドニア
得点者：樋口６、立野５、宮前４、内富３、野路・渡部・東濱２、早乙女・米田１

■7／30　○日本　３８－３２　コンゴ
得点者：内富11、若松・東濱６、早川・樋口４、宮前・野路２、渡部・立野・米田１

■8／2　●日本　２３－２７　ブラジル
得点者：内富６、宮前・早川３、野路・渡部・若松・立野・東濱２、樋口１

第14回世界女子ジュニア選手権大会　試合結果

〈最終順位〉

優 勝	ロシア	11位	ルーマニア
2 位	ハンガリー	12位	チェコ共和国
3 位	ノルウェー	13位	ポーランド
4 位	クロアチア	14位	コンゴ
5 位	ドイツ	15位	ブラジル
6 位	スウェーデン	16位	中国
7 位	デンマーク	**17位**	**日本**
8 位	マケドニア	18位	セルビア・モンテネグロ
9 位	韓国	19位	アルジェリア
10位	ポルトガル	20位	ウルグアイ

【日本チームの成績】

◆ 第1日（8月4日（月））

＜予選トーナメント第１戦＞

△日本　24（10―12、14―12）24　スウェーデン
（1分）　（1分）

スタートから攻撃のリズムがとれず４－８とリードされるが、ディフェンスから粘って前半２点差で折り返す。後半もなかなか攻撃が噛み合わず追う展開となるが、残り10分に逆転に成功、２点のリードを奪う。その後はシーソーゲームで奮闘するも、ラスト90秒、同点に追いつかれた攻撃の場面でシュートを決めることができず、残念ながらドローに終わった。

【日本の得点】樋口５、野路４、渡部４、東濱４、立野３、宮前２、内富２

◆ 第2日（8月5日（火））

＜予選トーナメント第２戦＞

●日　本　23（10―19、13―19）38　クロアチア
（1分1敗）　（1勝）

前半５分まで対等な攻防だったが、予想を超すスピードに乗った展開に圧倒され、中盤以降10分間ノーゴール、６連取を許す。後半３－２－１ディフェンスで粘り、若松・宮前の速攻、野路のカットイン等で追いすがるも、最後まで攻撃の手を緩めないクロアチアに突き放された。

【日本の得点】宮前５、樋口５、野路３、内富３、早川２、若松２、東濱２、渡部１

◆ 第4日（8月7日（木））

＜予選トーナメント第３戦＞

○日　本　31（16―11、15― 6）17　ウルグアイ
（1勝1分1敗）　（3敗）

固い立ち上がりも、３－３から樋口、渡部らで５連取。その後逆に連取されるなど、思うようにリードを広げられず、５点差で前半終了。後半は、樋口のロングなど５連取で主導権を握ると、その後も若松、宮前の速攻、サイドで

９連取し試合を決めた。今大会初勝利もまだまだ甘さが目立つ。特に前半の動きの悪さが解消されてこないのが気がかりである。

【日本の得点】樋口７、内富５、若松５、宮前４、渡部４、早川３、野路１、東濱１、米多１

◆ 第６日（８月９日（土））

＜予選トーナメント第４戦＞

●日　本　25（13―13、12―14）27　ポルトガル
（１勝１分２敗）　（２勝２敗）

立ち上がりの固さからポルトガルに３点の先制点を許すが、仲宗根のカットインなどで12分には５－４と逆転する。その後は一進一退で、前半を終了する。後半も立ち上がりに相手に４連取され追う展開となり、野路、宮前らの速攻等で追い上げるも残念ながらタイムアップ。Ａグループを１勝１分２敗で４位となり、13位以下の順位決定リーグ出場が決まった。

【日本の得点】宮前５、内富５、樋口５、早川４、野路３、仲宗根２、若松１

※日本は、Ａ組４位で順位決定ラウンドにまわる。

◆ 第７日（８月11日（月））

＜順位決定ラウンドⅠ－Ｐ組第１戦＞

●日　本　32（15―16、17―19）35　コンゴ
（１敗）　（１勝）

若松、宮前のサイドシュート等で４－１とするが、厳しい判定で退場者が出て相手のリードを許す。後半も強引な突進プレーを守り切ることができず、入れ替わりの退場で攻撃のリズムもとれぬまま、じりじりと離され６点差をつけられる。野路、樋口、宮前らで追い上げるも、ＤＦで守りきれず、またチャンスを活かせず、タイムアップとなった。

【日本の得点】宮前８、野路７、若松５、樋口５、早川２、仲宗根２、東濱２、渡部１

◆ 第８日（８月12日（火））

＜順位決定ラウンドⅠ－Ｐ組第２戦＞

○日　本　42（21―10、21―11）21　アルジェリア
（１勝１敗）　（２敗）

先制されるも樋口、内富、宮前、立野の４連取で主導権を握ると、その後もロングやポスト、速攻などで効果的に得点を重ねる。後半も藤井の７mTや回り込みなどでリードを広げ、危なげなく勝利をものにした。

【日本の得点】藤井１０、内富７、樋口６、宮前４、早川３、立野３、仲宗根３、若松２、早乙女２、米多２

◆ 第９日（８月13日（水））

＜順位決定ラウンドⅠ－Ｐ組第３戦＞

△日　本　26（13―14、13―12）26　ブラジル
（１勝１分１敗）　（１勝１分１敗）

お互い重い立ち上がりで攻めあぐむが、ブラジルのロングなどでリードを許す。後半に入っても日本はここ一番のチャンスにことごとく失敗し、重苦しい雰囲気が漂う。残り３分、宮前の速攻でついに逆転するが、その後退場７mTを決められ、同点のまま試合は終了した。

【日本の得点】野路７、宮前５、樋口３、渡部２、内富２、仲宗根２、東濱２、早川１、若松１、藤井１

◆ 第12日（８月16日（土））

＜17－18位決定戦＞

○日　本　29（17―15、12―12）28　セルビア・モンテネグロ
（Ⅰ-Ｐ組３位）　（Ⅱ-Ｐ組３位）

東濱のミドルで先制、宮前のサイドなどでリードするが前半は一進一退、２点差リードで折り返す。後半すぐに同点になるが、藤井の７mTや樋口のロングで突き放す。３点差リードから抜け出せずに追い上げられるが、ＧＫ久染の好守や立野のサイドで逃げ切った。最終戦、選手スタッフ全員がヨーロッパの国からの勝利に燃え、最後まで粘り通した感動のフィナーレとなった。

【日本の得点】東濱７、樋口５、内富４、宮前３、渡部３、若松３、藤井２、早川１、立野１

平成15年度全国中学校体育大会
第32回全国中学校ハンドボール大会



神森中学校（男子：沖縄）、上野芝中学校（女子：大阪）が優勝



中体連ハンドボール専門部の声

ハンドボールの醍醐味に感動

北海道中学校体育連盟ハンドボール専部長　高原　健



平成15年度全国中学校体育大会、第32回全国中学校ハンドボール大会が北海道ハンドボール発祥の地函館で開催されました。8月も中旬を過ぎると秋めいてくる北海道ですが、今年は例年にもまして暑い日が少なく、本大会期間中も気温20度程度の涼しい大会となりました。

一昨年の徳山大会、昨年の和歌山大会では特に男子の180cmを超える大型選手が目に止まり、スケールの大きなハンドボールを展開してくれました。今大会では各チームそのような選手は多くはありませんでしたが、速攻の速さ、鍛えられたフットワークによる安定したディフェンス等ハンドボールの醍醐味を感じさせてくれるプレーに感動しました。

男子総括

男子は、ベスト4に残ったチームが東海ブロック代表名古屋市立汐路中学校、名古屋市立御幸山中学校、九州ブロック代表浦添市立神森中学校、浦添市立仲西中学校と、東海と九州の対決となりました。どちらの試合も速攻で若干優る沖縄のチームが制し、沖縄同士の決勝戦となりました。決勝は神森中15番上原君のロングシュート、仲西中5番東君のパスワークを中心に、お互いの持ち味を発揮してくれました。最後は若干のディフェンスの厚さの違いで神森中が制しましたが、沖縄県のレベルの高さを感じさせてくれた決勝戦でした。

女子総括

女子は、近畿ブロック代表堺市立上野芝中学校、京田辺市立大住中学校、北信越ブロック代表氷見市立南部中学校、東海ブロック代表名古屋市立香流中学校の対戦となりました。どちらの試合も接戦となり、決勝は上野芝中学校と香流中学校が進出しました。上野芝中学校、香流中学校ともブロック大会では2位のチームであり、あらためて全国大会を勝ち上がっていくことの難しさを感じると同時に、この両校は技術的なことのみならず、メンタルな部分でも鍛えられてきたチームであると思いました。決勝戦は前半は互角な展開でしたが、後半上野芝中学校２番岡本さんがロングシュートで加点していき、勝利をにぎりました。

今後に向けて

男女とも緒戦で敗れたチームの中にも、将来性豊かな素材を感じることができる選手が多く、この選手たちと12月の堺市で開催されますＪＯＣジュニアオリンピック大会で再会できることが楽しみでなりません。これから大会まで指導していただく先生方には特段のご尽力をお願い申し上げます。

また、今大会は国際審判員の方々２ペアを含め、全国から審判員の方にも来道いただきました。中学生がこれからのハンドボール人生の励みになるような試合を演出していただき、感謝申しあげます。また全国規模のハンドボールの試合を見る機会が少ない北海道の中学生達、保護者の方々にとっても、あらためてハンドボールの楽しさを堪能できた大会だったと思います。

終わりに

最後に平成16年度千葉大会、17年度豊橋大会の成功をご祈念いたしますとともに、函館大会においてこのような感動的なゲームを行える選手に育てて頂いた諸先生・コーチの皆様に敬意を表します。本大会の準備・運営等に多大な御支援、ご協力を賜りました函館市中学校体育連盟、北海道ハンドボール協会、函館ハンドボール協会の関係者の方々に心からお礼を申し上げ、大会終了の御報告とさせていただきます。

第32回全国中学校ハンドボール大会を終えて（地元北海道の声）

「百万ドルの夜景の一つの灯りでいたい」

北海道ハンドボール協会理事長　駒林昭三（函館ハンドボール協会理事長）



私は、昭和20年からハンドボールを始めました。かれこれ58年になってしまいました。この大会を迎えるにあたり、全国に函館をアピールしたかった。そして大会に参加された選手、役員、父兄に函館を満喫させたい思いで準備してきました。

大会の始まり

8月16日函館空港にチャーター便が到着しました。この大会のために、臨時便が就航されました。もちろん乗客は、大会の選手と役員だけです。午後1時15分過ぎに約300名を越す選手と役員が降りてきました（今までにハンドボールの大会にチャーター便を就航させた例、それも選手、役員専用便が今まであったであろうか）。その時、今まで感じたことのない大きな胸のときめきを忘れられません。同時に、開催準備に当たり函館市中体連の実行委員の方へ、かなり厳しく（むしろ強引に近い要求や、助言）指示してきましたがその意味がきっとわかってくれる日が来たと思いました。毎日のように協会事務局に足を運んでくれた関係者のためにも、いつの間にか胸のときめきが緊張感に変わっていました。このチャーター便から、（財）日本ハンドボール協会山下副会長をはじめ斉藤常務理事他、多くの大会役員をお迎えし17日の審判会議から大会が開くことになりました。

開会式、大会運営について

開会式では、高野茂君（函館市立亀田中学校）の国歌独唱は、心うつものがありました。選手宣誓は、函館から第32回大会の感激と感動を全国へ発信するハンドボールのメッセンジャーの一人としての宣誓でした。「とにかく函館を出せ」の一言により、「函館賛歌」（市歌）、「函館の女」（北島三郎）をはじめ函館にゆかりの曲をアレンジしてのすがすがしい行進曲でした。あとは、競技だけが心配でしたが、今大会には国際審判員2ペア（家永・福島ペア、藤井・大祭ペア）を含め国内トップ級の審判団の編成に恵まれました。（財）日本ハンドボール協会斉藤審判部長に感謝申し上げる次第であります。そして選手の力と技を十分に引き出してくれた審判のパフォーマンスに感謝いたします。

限られた条件での会場でした。蒸し暑く狭苦しいと誰もが感じたことでしょう。だからこそ、函館の人情で何とかカバーしなければならないんだ。函館といったら、イカだ。大会役員用ポロシャツ、補助員Tシャツにイカをプリント。いつの間にか、そのイカに「函太」と名前が付けられた。IDカードにも函太をプリント、函太シールも作成、プログラムの表紙も函太であしらえました(かなりの抵抗もありました。苦笑)。登録選手全員はもちろんのこと、それ以外の選手にもプログラムとIDカード、記念バッグも配布させていただきました。歓迎レセプションも指向を変えてチーム関係者（監督、コーチ）、父兄の参加も歓迎し約150名の皆様と乾杯することが出来ました。

みんなで作る大会

競技初日、北海道勢（男女各2校合計4校）は、内地の強豪に完敗しました。甘さ、指導者の勉強不足が表れた次第です。過去の全国中学に出場した北海道の選手には、全日本代表選手やU－23の代表選手となり、日本丸の舵とりの一員となった者もいます。また、全国中学を経験した先輩がこの函館では、裏方になり大会を支えてくれました。主役は当然選手です。脇役があっての主役です。私達は大会運営者としては主役ですが、大会では脇役です。中学を卒業し、高校、大学、或いは実業団へ進みもっと上のレベルでハンドボールを経験してきた選手が、地元に戻り田舎の協会を手伝ってくれています。

彼らは、全国の多くのハンドボール関係者に指導され、貴重な経験をすることが出来たと思っています。彼らだけではありません。北海道から全国大会に審判で参加する人も、監督、コーチ等で出場する人も必ず全国の関係者に支えられていることを忘れてはならない。私達は、この大会でお世話になった人に恩返しをしなければなりません。形として、目に見える物で気持ちを伝えたい。奇抜すぎるアイデアとか、強引すぎる運営等と言われながらも、「函館をアピールすることによって、全国のハンドボール関係者に恩返しをしたかった」。こんな私のために、最後まで苦言を言われながら立派に閉会式までやり遂げてくれた古保事務局長に感謝申し上げます。そして本当の大会の運営の主役である補助員（函館市内の中学生）の皆さん、実行委員会の先生に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。チャーター便の申請、空港から宿舎までの無料シャトルバスの運行等を実施されましたＪＴＢ函館支店の皆様に感謝申し上げます。

終わりに

最後に、全国中学校ハンドボール大会に出場された選手へ「全中を制する者は、世界を制する」、「情熱は自信となり、熱意は人をひきつける」、閉会式が終わり場内の灯りが一斉に消え、コート中央にスポットランプの明かりがともり、北の国からのメロディとともに、古保みきお事務局長が立派に最後にお礼のことばを言われ閉幕できました。

ロス五輪アジア女子予選会を開催したあの大会よりも、第32回全中の出来の方がはるかに良かった。「ありがとう」

男子優勝チームの喜びの声

ありがとう



浦添市立神森中学校監督　上江洲　登

「日本一」の瞬間を監督としてベンチで迎える。本当に素晴らしい経験を子供たちにさせてもらいました。

昨年４月に赴任した当時は校舎改築中で練習場所もままならず、大丈夫かなと思いましたが、ハンドボールに対する関心が他とは比較にならないくらい高い浦添市、改築後はコートも２面整備され、素晴らしい環境の中で練習を重ねることができました。

チームは全国小学校大会で優勝した神森小学校が母体で、個人技能の高さだけではなく身体能力の高さも際立っており、しかも兄姉が経験者、父母が経験者というのがまたゴロゴロ、よくも集まったものだと感心しきり。



写真提供：㈱スポーツイベント

昨年、神森中学校は九州大会止まりでしたが、その頃から多くの子がチームの主力とし活躍していて、新チームになって子供たちが掲げた「大会はすべて優勝」の目標、その時なぜか現実的なものに思えました。

練習は３対３等のゲーム形式を多めに取り入れ、最後は必ずフットワークで終わっていました。雨天などでコートが使えないときはロードワーク、そして校舎の片隅でフットワーク。地味で、苦しい時にも明るく、楽しく、さらに練習を休まない。その取り組む姿勢（キビキビという訳にはいきませんでしたが）の素晴らしさ。18名いる３年生を中心としたチームワークの良さが彼らを優勝に導いたと思います。

前監督の名護清和先生（現仲西中）をはじめ、４月に赴任し基本的なことを再確認させてくれた東江功子先生（前港川中）、勝つチーム、強いチームにはどのようなことが必要か具体的に指導してくれた東江正作コーチ、食事や健康管理など陰で支えてくれた父母会や学校を含め多くの方々が支えてくれました。優勝は子供たちの努力に、これらの多くの協力があってのことと感謝しております。

最後に、今大会では、何も気にすることなく大会に集中することが出来ました。大会の成功に向けて長い時間をかけ準備してきた大会役員の素晴らしい運営に感謝します。

女子優勝チームの喜びの声

第32回全国中学校ハンドボール大会を振り返って



堺市立上野芝中学校　杉田　学（大阪ハンドボール協会理事）

久しぶりの全中だったので、今回は特に慎重にやってきたつもりです。大阪大会、近畿大会と共に２位で終わっているので（今思えばそれがかえってチームには良かった）、最後まで練習に集中して取り組めました。全国制覇は、一度は経験してみたいことなので、大変嬉しく思っています。これに奢ることなく、初心を忘れずチャレンジャー精神でより良いチーム作りを目指したいです。



写真提供：㈱スポーツイベント

勝因は、特にありません。とにかく、一試合一試合を、集中して全力でやった結果だと思います。印象に残ったゲームは、やはり２日日の吹上中学校戦と、嬢川中学校戦です。ともに、一点を争うゲームで、しかもインターバルが一試合しかなかったのがしんどかったです。中学生には、少々過酷な日程でした。

選手には、いい経験をさせてくれて感謝しています。これどこ満足することなく、いろいろなことで（もちろんハンドボールも含めて）再チャレンジしてもらいたいです。

今後は、どのポジションでも点の取れる、より守りの堅いチームを作りたいです。食事の面でも、御家庭に協力してもらい、よりスピードとパワーのあるチームにしたいです。

いろいろな方々に助けていただき、念願の全国制覇ができました。これからも、初心を忘れず、努力していきたいと思います。

神森小学校ハンドボール部（男子：沖縄県）、日岡ハンドボールスポーツ少年団（女子：大分県）に栄冠



京都府ハンドボール協会副理事長　中森雅彦

京都国体を契機に開始された全国小学生大会も、今回で第16回目を数えるに至りました。本年度は、男子25チーム・女子22チームが参加し、8月1日から3日の3日間、田辺中央体育館をメイン会場に、同志社大学体育館、田辺高校体育館の3会場で開催されました。本大会も回数を重ねる中で、年々レベルもアップし、予選リーグの段階から、白熱した好ゲームが繰り広げられました。

●大会総括

中でも予選リーグで惜しくも敗退しましたが、男子の木田ブルーロケッツ2000（福井）や女子の小金井ハンドボールクラブ（東京）、瀬戸オールスターズジュニア（岡山）などは、よく練習を積んだ好チームの印象を受けました。そんな中で勝ち進んだ、決勝トーナメントでは、男子では、沖縄の神森小が前年度優勝の守谷クラブ（茨城）を一回戦で破り、同じ九州勢の玉名町小（熊本）とともにベスト4に勝ち進み、松井ヶ丘小・田辺東小の京都勢と決勝戦進出をかけ、準決勝で対戦しました。神森小と松井ヶ丘小の対戦は、試合終了間際まで、1点を争う好ゲームを展開しましたが、最後に神森小が追いすがる松井ヶ丘小を振り切り、決勝戦へと駒を進めました。玉名町小と田辺東小の対戦は、キーパーの好セーブと高い攻撃力で、田辺東小を退けました。九州勢同士の決勝戦は、前半はとられたら取り返すのゲーム展開で、どちらもゆずらぬまま、後半を迎えました。後半に入り、神森小が堅いディフェンスと、どこからでも点が取れる個人技の高さを武器に、一気に玉名町を突き放し、19対13で優勝を手にしました。

一方女子では、上庄スポーツ少年団（富山）、松井ヶ丘小（京都）、当尾小（熊本）、日岡ハンドボールスポーツ少年団（大分）の4チームが勝ち残りました。ともに準決勝で接戦をものにした、松井ヶ丘小と日岡が決勝戦での対戦となりました。前半は、両チームとも好プレーで応戦し、ともにゆずらず、8対8の同点で折り返しました。後半に入ると、日岡が、着実に得点を重ね、松井ヶ丘小をリードする展開となり、終盤の松井ヶ丘小の懸命の追い上げをかわし、17対13で勝利をつかみました。

今大会では、男女ともに優勝杯を手にした、九州のチームのレベルの高さと、大会を盛り上げることに一役をかった地元京都のチームの健闘が目につきました。

●今後の課題と謝辞

全国大会とはいえ、全都道府県から参加という点からは、まだまだほど遠い状況ではありますが、確実に参加チームがレベルアップしているとの実感があります。今後より多くのチームが京都を訪れてくれることを期待いたします。

最後になりましたが、今大会の開催に当たり、多大な御尽力を頂きました、日本ハンドボール協会の皆様と、京田辺市の皆様の献身的なお力添えに深く感謝いたします。また、日本ハンドボール協会審判審査員の島田房二氏におかれましては、御多忙の中、わざわざ京都にお越し頂き、レフェリングについてアドバイスを頂戴いたしましたことに深く感謝いたします。

皆様の御期待に添えるよう、この大会がより発展し、日本のハンドボールの底辺拡大とレベルアップに少しでも寄与できるよう、更に努力していきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

喜びの声：浦添市立神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）監督　翁長誠光



今回の優勝で男女併せて4年連続の優勝ですが、今までのチームは県内でもダントツの強さで県予選を勝ち抜いて、優勝を意識して全国大会に出場しました。しかしながら、今年のチーム



㈱共同写真企画提供

は県予選も危惧されましたが、何とか全国大会出場したチームですので今回の優勝は格別です。勝因は子供達が、練習でしてきた事をゲームの中でのポイントとなる場面で120％以上の力を発揮したこと、宜野座コーチ（女子ハンド部監督）を中心としたスタッフの充実。そして何よりも遠い沖縄から応援に駆けつけてきて頂いた父母の熱い声援が他のチームより少し勝っていたことと思慮します。

チームは、10年ほど前に宮城小学校で全国制覇をした川上先生が当校へ着任されてハンド部が結成されたことに始まります。設立当時は、バレー部と掛持ちの選手がほとんどだったと聞いています。今では、父母会が中心となって、学校側の協力と理解を得ながら運営しています。

子供達にはビックリさせられました。選手達には、あらためて『努力に勝るものはない』ことと、『感動をありがとう』と大きな声で伝えたいです。

今後の課題としては、子供達がこれから先、中学・高校・大学とハンドボールを続けて行く上で、体格面をもっと大きくしていかないと苦労すると思います。そのために、食事の面で父母と連携をとっていきたいと思います。さらに今後は、５年連続連覇と男女アベック優勝に向けて子供達と大きな夢と目標をもって、頑張ります。

今回の優勝できたのも、県内他校のチームや監督、そして沖縄県ハンドボール協会の方々からの指導・練習相手になって頂いた神森中学校ハンド部の皆さんのお陰です。本当にありがとうございました。

喜びの声：日岡ハンドボールクラブ（大分県）総監督
藤下雅士



４月の新チームスタート時より、前半の目標を全国優勝に掲げ、練習に取り組んできました。特にＤＦ練習を重点に置き練習に励んできたので、大事な場面で自分たちがもてる力を充分発揮し、ＤＦが機能した事が特にうれしかった。印象に残った試合としては、予選リーグ１回戦、緊張感から本来の動きが出来ず、ミスからリズムがつかめず苦戦したゲーム。準決勝の当尾小学校戦で残り５分間１点差で耐え、ＤＦ練習でやった事ができたゲームです。



㈱共同写真企画提供

チームは、私が前任者から引き継いで15年目で25年の歴史があります。当初は父母会組織もなく、妻と２人で手探りであったが、父母の協力で組織もでき、今では指導者と母集団が良い関係を保ちスポーツ少年団の育成に努めています。

日頃から選手へは「ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために」をモットーに感謝の気持ちを絶対に忘れないように言い続けてきました。苦しい時もたくさんありましたが、自分を信じて、仲間を信じて最後まであきらめず戦ったこと忘れないでほしいと思います。

今後は、練習面では、特にＤＦ練習と個人の能力のＵＰに取り組んでいきたいと思います。また、部員不足なので、部員募集で確保に努め、また全国大会に出場できるようなチームを作り、ハンドボールの底辺を広げていきたいと思います。

◇ハンドボール・アラカルト◇　切手に見るハンドボール（１）

趣味の王様と言えば、昔も今も切手、世界中でも同じです。ハンドボールに関しても多くの切手が、多くの国で発行されています。日本で発行されたハンドボール切手について紹介しましょう。日本では、国体切手が３種類、ふるさと切手として「熊本世界選手権」１種類、合計４種類が発行されています。決して高いものでもありませんし、珍しいものでもありません。町の切手ショップで求めてみませんか。

※表記の金額は10月現在ショップでの販売価格です。



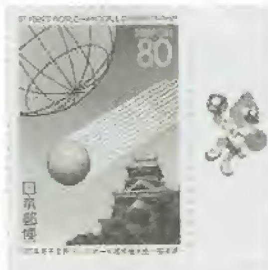
第19回国体
（1964・50円）



第40回国体
（1985・70円）



第49回国体
（1994・80円）



熊本世界選手権大会（ふるさと切手・1997・120円）

根づくスポーツ文化

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

最近「地域に根づいたスポーツ文化を育てよう」という声をよく聞く。11年目を迎えたＪリーグは、スポーツを通して世代を越えた触れあいの輪を広げるなどを掲げた「百年構想」を推進している。こうした動きは、地域活性化のためにも欠かせない活動であることはいうまでもない。

しかし、掛け声だけでは事は進まないし、軌道に乗せるのも相当なエネルギーが必要だ。それを現実にしている町がある。広島県北に位置する甲田町。

この町はご存じの方もあろう。日本リーグ男子の強豪、湧永製薬の本拠地だ。

湧永が大阪からこの町に本拠地を移すまでは「ハンドボール」には全く無縁であるといってもよかった。ところがこの地でリーグが開催されるようになって、住民が「目覚めた」のだ。そこには「強い湧永を見たい」こともあったかもしれない。しかし、少年少女の教室を開くなど「ハンドボールという競技を住民に知ってもらおう」の努力があった。町内３つの小学校の巡回指導が今年で25年にもなった。

96年のひろしま国体ではハンドボールが開催され、翌年からは国体開催を記念して中学生男女が参加する「甲田Ｇ・Ｆ・Ｆカップ」が開かれている。この大会では湧永製薬と女子のメイプルレッズが参加者に指導するなど、今では「ハンドボールの町」として活発な活動を続けている。

その「ハンドの町」がこの夏、喜びに沸いた。小学生チームが今年も全国大会に出場したが、それだけに止まらなかった。中学、高校がいずれも悲願だった全国大会の舞台を踏んだのだ。

甲田中出身者が大半を占める向原高の男子が長崎インターハイ、甲田中女子が全国中学校大会へそれぞれ出場を果たし、小中高そろって全国大会に進むという快挙を達成した。

向原高のインターハイキップ獲得は、３年前の中学生大会ベストの経験が大きくものをいったのかもしれないが、地道な育成・普及活動の成果であろう。

これは一例に過ぎないが、町を挙げての努力が大きな花を咲かせたことは間違いなく、地域にハンドボール文化が根づいたといってもいいだろう。中学生大会では民泊を引き受けるなど住民のもてなしも好評だ。こうした地域が各地にできることが、ハンドボール界活性化につながるのは明らかである。



平成15年度第11回全日本ハンドボールマスターズ大会

いつでも、どこでも、いつまでもハンドボール



宮崎県ハンドボール協会副理事長　巣立勝弘

『マスターズ』とは

１年前の理事会において、全日本ハンドボールマスターズ大会の宮崎大会の打診がありました。折しも、その前年度には、宮崎において初の全日本マスターズ大会が11種目で開催された半年後でした。理事会においても、総合大会としてのマスターズへ、なぜ日本協会は参加しないのだろうか？というような声も聞かれたが、観光宮崎、スポーツランドとしての宮崎の良さを発信してはどうか！ということで、なんとか開催する方向で準備を進めることとなりました。本大会開催までの３ヶ月は、参加していただく皆さんに失礼のないように実行委員会を中心に万全を喫し、鋭意準備したつもりですが、行き届かない面が多々あるのではなかろうかと、緊張した面持ちで大会を迎えることになりました。

『往年のプレイヤー』の踏ん張り

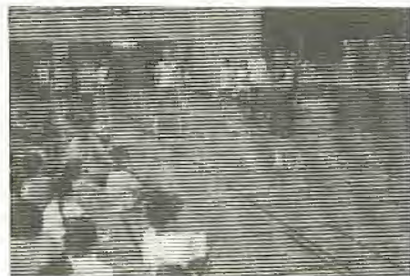
いよいよ競技が始まり、順位決定型の火花散るリーグ戦、交流型の和気あいあいの中にも、老体に鞭打っての必死のプレー、双方にそれぞれの素晴らしさがあり、コート内の誰もが、心の中では『すばらしき仲間』『Good fellow』であることに気づいたのではないでしょうか。レフェリーも必死でした。それぞれのプレーや、お腹の？発育発達段階に即応した芸術的なジャッジを行っていただきましたことに大変感謝いたしております。

『子供交流タイム』

競技１日目の12時から13時30分を『子供交流タイム』をセッティングし、名古屋の若松義則氏に、100名を超える親子を対象にして、ハンドボールレクリエーションによる楽しいひとときを提供していただきました。全国の多くの子どもさんやお父さん、親御さんがレクリエーションで汗を流し、笑顔でお互いを理解しようとするその光景に、ハンドボールが『文化』であり『コミュニケーション』としての重要性が体育館全体に満ちあふれたひとときでした。

『和太鼓』と『そのまんま東』の取り合わせ

大会レセプションへは、500名ほどの大勢の方々が詰めかけ、懇親を深めていただいたのではないかと感じているところです。８時からは、宮崎を代表する和太鼓演奏『響座』の演奏で会場は、はち切れんばかりの熱気となり、その後、今大会、泉丘会ドリームチームで出場している、本県出身タレントの『そのまんま東』氏のトークショーで、会場は最高潮となり、再び『響座』の観衆を感動の渦に舞い込むステージを最後にレセプションは終演となりました。そして、終演と同時に、ホテル前の大淀河川敷では、マスターズ大会の盛会を祝福するかのような、見事な花火には、子どもから参加したマスターズ選手まで、宮崎らしさを感じていただいたのではないかと、大会事務局としてちょっぴりうれしいシチュエーションでした。



子供交流会における若松氏の指導



女子優勝のマミーズの皆さんとそのまんま東さん

来年は『花巻温泉』で

現在のハンドボール・マスターズ大会は、総合大会としてのマスターズ大会への加盟ができていません。今回のマスターズの競技方法が、順位決定型と交流型の２面制で開催されるということで、日本協会としても競技制を求めたマスターズへの参加を見合わせています。ハンドボールマスターズ大会は、参加チームと競技者数が着実に増加していて、今後ますます大きくなることが推測されます。必然的に競技型グループは総合大会としてのマスターズ大会へ吸収されていくでしょう。ハンドボールマスターズ大会は、交流を大切にしてきた大会であり、生涯スポーツの推進の主旨を貫いている貴重な大会であります。この主旨をいかに持続させるかが今後の課題になりそうです。

本大会は、改めて生涯スポーツ推進の素晴らしさを感じることができた大会でもありました。そして、順位決定型の往年のナショナル・プレーヤーが繰り出すスピードと技、交流型でも銀パンツ、金パンツの皆さんのハンドボールをこよなく愛する楽しさあふれるプレーに、スポーツの原点をかいま見る２日間でした。なんといいましても、主管県といたしましては、アキレス腱断裂のような大きな事故もなく、全日程を終了できたことが、なによりのお土産であったように思います。スポーツランド宮崎、観光宮崎、そして、宮崎県ハンドボール協会の心づくしを胸のどこかにしまっておいていただければ幸いです。

今回の大会開催に当たり、御支援いただきました、（財）日本ハンドボール協会をはじめ関係団体、協賛各社へ衷心よ

り御礼申し上げますとともに、来年、岩手で多くの『Good fellow！』との再会を祈念申し上げ、マスターズ宮崎大会の寄稿と御礼に代えさせていただきます。

※大会結果はスコアールーム欄に掲載いたします。

参加者の声

ハンドボールは年齢ではなく気持ち

松村ファミリー　和田清子

私は今回初参加でした。参加のきっかけは、地元開催という事で、延岡で１チーム参加して欲しいとの要請でありました。主人が40才、私が35才とお互いにマスターズ１年生だという事で同じ大会に夫婦で参加できるということも一つのきっかけになったように思います。

参加して気がついたことは、レベルの高さと先輩の方々のスピードと気迫のあふれるプレーの連続に、ハンドボールも生涯を通して楽しめるスポーツだということでした。何も知らなかったとはいえ、交流型のレベルを甘く考えていた私にとってはとても大きなショックでした。必死の思いでプレーしましたが、一分二敗という残念な結果に終わりました。諸事情により全員がコートに立つことができなかったことや、一度も練習をしなかったことを思えば当然の結果ではあります。今大会に向けて、又、日頃から練習をされておられるチームの方々には失礼なことであったと反省しております。

実際、私の母とあまり変わらない方々と同じコートに立っていて、先に息が切れ、足が止まるのも私の方でした。思わず自己嫌悪に陥りましたが、同時にたくさんの「元気」を頂けたように思います。コートの中では「年齢」ではなく「気持ち」が大切なんだと改めて思った次第です。

交流の面から見れば、私のような高校でしかやってこなかったハンドボーラーは他県にそう知り合いもなく、昔を懐かしんでということはなかったものの、チームメイトの先輩方はそういった交流をされていて、素敵だなあと思いました。会場には有名な方々もおられ、声をお掛けすることはなかったものの、近くで拝見できて、参加してよかったなあと思いました。

これからは県内のいろいろな大会に、またこのメンバーで参加していきたいと思っています。そして現在、指導をしている少年団の子供達とマスターズの私たちが上手に関わっていけるようなハンドボールを目指していきたいと思います。

最後に、大会運営スタッフの皆様、素晴らしい大会や楽しいレセプション等ありがとうございました。今大会でお会いできた皆様がこれからもお元気にハンドボールを続けられ、またお会いできればと思っています。

老体に鞭を打つのではなくテーピング張ってのマスターズ

宮崎県ハンドボール協会専属トレーナー　中野　博

（宮崎フェニックス所属）

７月26、27日に行なわれました全日本マスターズハンドボール宮崎大会に、トレーナーの一人として、今回、参加させていただきました。主にテーピングで選手の皆さんをサポートするというのが、私達の役割です。

当日は隣接する三つの体育館が会場となっており、各体育館にテーピングコーナーを設け、私はその一つである市民体育館を27日の午前中担当しました。

当初の予定では、テーピング希望者は数名と伺っており、私はゲーム観戦を楽しみながらテーピング・サポートをするはずでした。ところが、大会２日目ということもあり、前日のゲームでの負傷者が予想より多く、約20名ほど当コーナーを利用して頂くという大忙しの状態となりました。私としましては、この大会は無理をせず、且つ、笑いを交えたゲームを楽しむためのものとばかり思っていましたが、なかなかの力の入った熱戦だったようです。

テーピング・コーナーを利用頂いた選手の皆さんの多くは、「折角、遠方から来たので、ぜひ勝ちたい」、「自分の今持てる力を十二分に発揮したい」、だから多少の怪我でもゲームにでるとおっしゃっていました。私もそんな選手の皆さんの気持ちに応えたいと思いテーピング・サポートをさせていただきましたが、利用いただいた選手の皆様に満足頂けたか心配です。

今後の大会において、選手の皆さんに十二分に力を発揮していただくため、テーピング・サポートをより有効に活用して頂きたく、参考までに下記のとおり反省点を二つあげてみます。

（１）選手には負傷予防のため、スポーツ障害、スポーツ外傷などがあり、全てに対応できる衛生材料（種類、質、量）、及び冷却用の氷を多めに準備する。

（２）テーピングを希望する選手は、少なくともゲーム90分前にはテーピングコーナーにて処置をしていただき、ウォームアップ後、もう一度テーピングの状態を確認する。

私自身には、この他にも多々反省点がありましたが、試合やレセプションは大いに盛り上がり、すばらしい宮崎大会でありました。これ以後の大会におきましても、益々の御発展を期待しております。

第28回日本ハンドボールリーグ開幕

日本ハンドボールリーグ委員会委員長　川上憲太（（財）日本ハンドボール協会常務理事）

いよいよ今年も日本リーグ開幕の時期となりました。ハンドボールファンのたくさんの期待を背負って６ヶ月間に亘って熱戦の火ぶたが切って落とされます。皆様、どうぞご注目、ご声援の程、よろしくお願いします。

男子はホンダの連覇なるか、女子は広島メイプルレッズの牙城をどこが切り崩すか誠に興味深いのと、各チームとも補強を重ね、ここ数年見られた１チーム断トツ状況から実力接近、久しぶりに１試合１試合の動向が気になる緊迫したリーグ戦が展開され、プレーオフの最後の最後までわからない接戦となるでしょう。

❶スポーツ振興基金からトップリーグ支援助成金

現在、日本の頂点強化の方法として、先ずは日本リーグチームの中からナショナル選手選抜・育成が原点であることは言うまでもありません。

今年度より、そのトップリーグに頂点強化の目的で国より上記助成金が配分されました。トップリーグをさらに活性化し、盛り上げていくことがナショナルチームの国際競技力向上に直接的に寄与するという考え方からです。国から助成金を受けるということは、国民に対してリーグとしての責任を問われることであり、是非ともこれに応え、成果を出すことを義務づけられたわけです。

その事より、各チームがリーグ戦を通じてしのぎを削り合うことがナショナルチーム、ナショナル選手の好成績につながることを、我々日本リーグに携わる一人一人が心におき、リーグを推進していかなければならないと思います。

❷第29回（平成16年度）より男子一部リーグは８チームから７チームへ

先日の日本リーグ部長会でここ数年検討してまいりましたリーグの構成と運営の問題で第29回大会より男子１部リーグは８チームから７チームへ移行されます。トップリーグの益々の活性化を狙ったものであります。今大会ではその生き残りをかけた戦いも注目であります。

❸オールスター戦の実施

しばらく行われませんでしたオールスター戦が復活します。プレーオフ終了後に本年度活躍した選手を選抜し、夢の対決、夢のゲームを実施いたします。只今、実行委員会で準備中です。

❹チャレンジ・リーグの開催

第28回大会は女子１部・男子２部は昨年同様３回戦総当たりで行いますが、男子１部リーグは平成16年２月に世界選手権予選が行われるため、２回戦総当たりとなります。この間のスケジュールを埋めるべく日本リーグチームと各地域の学生連盟の大学チームとのリーグ戦を行い、日本リーグと学生チームとの技術交流とレベルアップを計りたいと思っています。又、このチャレンジ・リーグは今後も日程を調整し、毎シーズン実施する予定です。

10月11日から全国各地で開催される日本リーグのゲームに、皆様どうぞ直接足を運んでいただいてご声援くださいますようお願い申し上げます。

※主な試合は全国チケットぴあで販売予定です。

第28回日本ハンドボールリーグに向けての各チームの抱負

◆ 1部男子 ◆

ホンダ

国内４大タイトル制覇を不変の目標に掲げ、今期はベテランの域に入ってきた主力メンバー４名を兼任コーチとし、荒木ヘッドコーチを中心に新スタッフ体制で日本リーグ新記録となる６年続優勝に向け、日々トレーニングに励んでいます。

湧永製薬

今年も超攻撃型で観客の皆様を魅了します。

大同特殊鋼

今年は「アグレッシブ＆ハード」をスローガンに、リーグ制覇に向けチーム一丸となり全力で戦い、ファンの皆様に感動を与えることができるよう頑張ります。ご声援よろしくお願いします。

大崎電気

創部から40年が過ぎ、日本リーグチームの中で最も古い歴史を持ちながらも、不変のチャレンジ精神でさらに新しい伝統づくりに邁進していく決意に変わりありません。気迫溢れる大崎セブンのプレーに、どうぞご注目下さい。

ホンダ熊本

本田技研工業㈱熊本製作所は、会社の周囲を緑に囲まれ主に二輪車の製造を行っています。今シーズンこそは念願のプレーオフ出場・日本一を目指します。今シーズンもファンのみなさんの応援宜しくお願い致します。

トヨタ車体

トヨタのワンボックス車を生産し、ボデーメーカー世界№１を目指すトヨタ車体。今年は「飛躍」をスローガンに強い気持ちを持って諦めず、継続することを全員が一丸となって上位進出を目指しますので、ご声援をお願いします。

アラコ九州

速攻を中心としたスピード溢れる攻撃で上位進出を狙います。皆さんご声援お願いします。

ＨＣ東京

ＨＣ東京は、東京におけるハンドボール競技での活動を通じて、ハンドボール、スポーツの文化としての発展、地位向上に寄与しています。私達のクラブは「強く　愛され　そして開かれたクラブ」を合い言葉に頑張ります。

◆ 1部女子 ◆

広島メイプルレッズ

地域密着型の広島メイプルレッズは、多くの協賛各社と熱烈な会員の後押しで史上タイの５連覇を果たし、歓喜を分ち合いました。第28回リーグも高いレベルの結束力で史上初６連覇に挑戦致します。応援の程、宜しくお願い致します。

北国銀行

本年は、創立60周年という記念の年堀田新監督のもと、個の強い集団で、目指すは、リーグ初制覇！

シャトレーゼ

シャトレーゼは洋菓子界では今や日本一の会社です。私達ハンドボール部も多彩な攻撃とアグレッシブな防御で日本一を目指します。

オムロン

創部30年目を迎えチーム目標である「得点25点以上、失点20点以下」を永遠のテーマとし、「より美しく、より強く」さらによりスピーディーな変化にとんだハンドボールを今年は目指します。

ソニーセミコンダクタ九州

ソニーセミコンダクタ九州は、幅広い半導体分野で世界の最前線を先駆しています。チームも、システム防御、及び攻撃を身上とし、スピーディー溢れるゲーム展開でチーム一丸となって戦っていきます！

ＨＣ名古屋

特定非営利着地法人名古屋スポーツクラブが運営母体であるＨＣ名古屋は、現在会員小学生から一般まで、約160名からなるクラブです。“地元に密着し、開かれたチーム”を目指して、クラブメンバーの熱い思いをうけ、精一杯戦いますので、ご声援よろしくお願い致します。

◆ 2部男子 ◆

北陸電力

今年は新人、移籍の４選手が加わり、ポジション争いも激化。競い合い、磨き合った新たな北陸電力で、地元のハンドボーラーやファンの皆さまに夢を与えられるよう、全力でプレーします。

トヨタ自動車

「Drive Your Dreams」豊かな社会創りに情熱をかけて、お客様に喜ばれる車づくりに挑戦するトヨタ。元気・やる気・勇気を全員が胸に秘め、ハンドを通じての「人材育成」と「地域貢献」を実行、２部優勝に向け一戦一戦全力で戦います！トヨタセブンにご声援よろしくお願い致します。

大阪ガス

今年も、新人等の加入はありませんが、全員一丸となって戦っていきます。昨シーズンの戦いでは、前半の立ち上がりに点差をつけられ、後半追い上げるも一歩およばずの試合運びとなったため、今シーズンは前半立ち上がりに勝負をかけて戦いたい。

豊田合成

愛知県の尾張地区に本拠地を置く豊田合成は、本大会がリーグ加入４年目となります。堅守なディフェンスからのスピーディーな速攻に磨きをかけ、第２８回大会に臨みます。精一杯頑張りますので、ご声援宜しくお願い致します。

連載36

NTS2003報告

競技力向上における一貫指導システムについて

JOC競技者育成プログラム構築のためのモデル事業チーフ　蒲生晴明

平成14年12月14日（土）～15日（日）、ホテル海洋（東京都新宿区）において行われました「平成14年度公認スポーツ指導者全国研修会」の研修レポートが平成15年３月31日に発刊されました。研修会のテーマ別研修に於いて、蒲生晴明氏（(財) 日本ハンドボール協会参事、中部大学教養教養部助教授）が「競技力向上における一貫指導システムについて」発表致しました。(財) 日本体育協会の承認と、ご本人の承諾を得て転載致します。

まず一貫指導システムの概念から入り、システムの解説、さらにハンドボールを例に挙げて、具体的な課題、問題にも触れていきたいと思います。

現在、私はＪＯＣの“競技者育成プログラム構築のためのモデル事業”中央班のチーフとして活動しています。“競技者育成プログラム”という言葉ですが、文部省（現文部科学省）が2000年に策定したスポーツ振興基本計画には“我が国の国際競技力の総合的な向上対策”の具体的な施策目標として、’05年までに各競技団体がこのプログラムを策定すること、とうたわれています。スポーツ振興基本計画から、現在ＪＯＣはゴールドプランを立ち上げ、その中の１つのプロジェクトとして活動しています。このモデル事業は’98年に陸上競技や水泳など７競技９種目からスタートし、その次にテニスやハンドボールなど７競技、さらに本年度はバスケットボールをはじめ６競技が新たに加わって、いまプログラムづくりを進めています。例えばサッカーですとトレセン、ハンドボールですとナショナル・トレーニング・システム（ＮＴＳ)、という呼び方をしています。来年度（2003）は各プログラムが策定されて、実行されているかどうか評価、あるいはサポートしていくという段階に入っていきます。

本年より、ＪＯＣでは強化費配分の評価方法を見直し、“一貫指導システム：競技者育成プログラム”の重要性を鑑みて、これらのシステムをもっている競技団体に、ポイントが加算され、強化費配分の面で有利になります。４月から始まるスポーツくじ助成金分配に関しても、中央班がＪＯＣの立場で、システムを策定した競技団体の評価を実施し、ｔｏｔｏ申請へと支援する形となっています。

一貫指導システムの基本コンセプト

まず世界各国が競技水準を上げている現状があります。もちろん日本でも一生懸命強化に励んでいると思いますし、世界で活躍する選手も出てきてますけれど、諸外国の躍進は著しいものがあります。

これまで日本の強化は優秀な選手を選抜して強化する方法が主流でした。例えば、良い素質の人がいたとしても、大会で記録が出なかったり、負けてしまうとそれで終わってしまうケースが数多く見られました。そこで、ジュニア期からトップまであるいは競技を終わった後のセカンドキャリアまでトータルに捉えた、一貫した指導理念と指導方法に基づいて競技者を育成強化していくという考え方に発想を転換していくことが大事だということに気がつくわけです。

それでは日本が低迷している主な原因は何だろうなと。沢山ありますけれど、例えはよく言われるのが、国際経験の不足、基本的な戦術・技術が不安定、統一された指導システムが確立されていない、自チームの勝利を優先的にやっている。それから指導者育成の立ち遅れ。現在８万人の公認指導者がいますが、１億2000万人に対して果たして多いのか少ないのか。それからスポーツに関する国民の認知度。それからディスクロージャー（＝情報伝達）の問題もあります。

このままではＪＯＣとして、あるいは日本国民としてメダルが取れない、オリンピックに出場できないということになります。この事態を改善するには、世界で勝つためにはどうするかというようなベクトルを、指導者、競技者が同じ方向に向いていくためのシステムが必要なります。当然その中には、指導者の資質の向上もありますし、ディスクロージャーを進めて、誰でもその情報をキャッチできるようにしていく。セカンドキャリアの充実も、選手が安心して競技力向上に取り組むためには大切でしょう。

一貫指導システムの構築には、学力あるいは進学の問題、指導者の非協力、それから指導者のエゴなど大きな障害も予想されますが、「スポーツ分化を構築していくんだ、スポーツは文化だ」ということを我々は肝に銘じて活動しています。そのための具体的な行動が“競技者育成プログラム”の構築およびその実行なのです。

求められる競技者イメージとシステム構築の基本要素

一貫指導システムによって、どのような競技者を育成していくのか。いま“競技者”と言いました。“選手”というのは“選ばれた者”と解釈されるのかもしれませんが、“競技をする者”というのは、別に選ばれなくても、皆プレーヤーとしてやれるわけですよね。ですからここでは“競技者”というふうに呼んでいるわけです。

競技の高度化、価値観・人生観の多様化、大きくなった競技者の社会的影響など、現在のスポーツ界を取り巻く環境から、求められる競技者のイメージとして、１つは優れた競技能力。心技体ともに優れた素質と、それをもとに鍛え抜かれた高い競技能力を持ち、さらに世界の頂点を目指して挑戦しつづける競技者というイメージ。もう１つはバランスのとれた豊かな人間性。自立的、創造的に社会生活をおくることのできる能力を持ち、フェアープレー精神を生かして社会に貢献する魅力ある人間性を持った社会人、ということです。

当たり前かもしれませ人が、「ルールを守り相手を重んじ、ケガをさせるようなことはしない、させない、正々堂々と競技する」と言ったプレイ面。また、「一旦競技を離れれば、常識

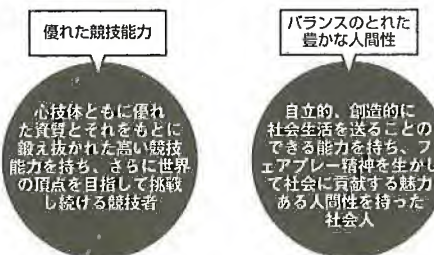


図１　理想的な競技者のイメージ

的な行動言動ができ、自立し社会に貢献できる豊かな人間性を持った学生・社会人」だと思います。（図１参照）

システム構築にあたっては、●個人の持っている素質、可能性に応じて●様々な種目やチャンスにチャレンジできる中から個人が最適のスポーツを選択でき●競技特性と発育・発達段階に応じた最適なトレーニングを●最良のトレーニング環境の中で●最前な指導者、サポートスタッフのもとで競技能力を開発して最高度まで高めていくとともに●社会的な存在としての人間性を深め、さらに●競技引退後もスポーツを楽しみながら社会人として豊かな人生を送ることのできる環境を整えなければなりません。そのための組織・マネジメント体制の上に“競技者育成プログラム”が成り立っていくのです。

発育・発達に合わせた一貫指導

一貫指導システムを簡単に図式化するとこのようになります（図２参照）。発掘の下に小さく〔地域スポーツの土壌充実〕とありますが、ここが一番大切だと思うんです。例えば中学校には卓球部がないから他の部活に入るというケースはたくさんあるのではないでしょうか。例えば、そこに総合型地域スポーツクラブがあって、行けば卓球を教えてくれる。それが本来の地域スポーツだと思うんです。皆さんが中心になってこれを作っていただくと、子供の夢を叶えることもできますし、競技者の芽がたくさん育っていくことになります。

この“見つけ、育て、活躍させる”発掘システムにはさまざまな型があります。まず一貫指導システムのベースとなるのが「ブロック選考型」。都道府県でいろいろな大会や研修会をやったりしながら上がってきた優秀な競技者をブロックで強化し、その中からジュニア、トップに上がっていくというピラミッド型です。次にオーディション型。シンクロナイズドスイミング、新体操やフィギュアスケートなどの芸術系技術に有効です。例えばシンクロナイズドスイミングでは全国から書類が100通以上集まって、書類選考に残った数10名が全国からオーディション、その中からさらに数名を選んで強化選手に指定することを始めました。従来の競技者選考型も陸上競技、水泳や格闘技系などの個人種目では有効です。またトライアウト選考型。これには団体種目の地方予選で勝てなかったナームから行うという同一種目の中でのものと、競技の転向のきっかけを作る異種目でのものという２種類が考えられます。

これらをうまく融合させていくことによってさまざまな競技者を発掘していきたいと考えています。

ＮＴＳのケース

一方、私は日本ハンドボール協会のＮＴＳ運営委員会委員長として競技者育成プログラムを立ち上げておりますので、具体的な課題や問題点を紹介します。委員会は’98年に発足し、まとめあげるのに３年かかりました。

そこで問題点は、ヒューマンウエア、ハードウエア、ソフトウエア、財政の４つです。ヒューマンウエアの問題点には、人材不足、指導者の非協力・エゴなどがあります。もう１つ、指導者の皆さんにはフロンティアな精神を持っていただきたい。今まできちんと流れているから問題ない、となりがちですが、そこで10年20年先を見越して、新しい発想で変えていく。

ハードウエアでは、施設の問題。一部の体育施設では管理のための施設なのか、使用のための施設なのか分からないような運用がみられます。子どもたちが自由に利用できるよう心がける必要があると思います。

次にソフトウエア。一番難しいのは「基本ってなんですか」ということ。そして、「発育発達の段階で最適な質と量を考えて指導する。指導の理念を一貫させる」ことを各競技団体が統一して作らなければなりません。これに関して、いままでの強化合宿というのは競技者たちだけ集めて行っていましたが、一貫指導を進めるためには、その競技者を育てている指導者の方にも一緒に参加していただかなければなりません。

最後に財政の問題です。当初はほとんどボランティアような状態でしたが、来年度からはｔｏｔｏの助成を受けられるので解消されるのではないかと思います。

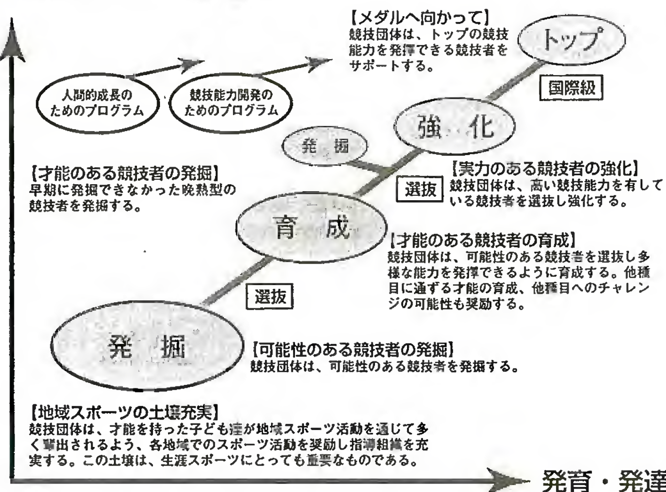
システムの充実はまず地域から

高橋尚子、彼女はもともとトップ選手ではありませんでしたが、自分から小出監督のドアを叩きました。

もし、小出監督がその時に断っていたら、はたしてシドニーオリンピックの金メダルは取れたでしょうか。こういう選手がいるんです。まったく氷山の一角なんです。

また群馬県嬬恋村は人口一万人余の小さな村ですが、スケート競技で多くのメダリストを輩出しています。あの村には小さなピラミッドがあって、子どもの頃から皆オリンピックのメダルを目指して同じ環境のもとで指導されています。皆さんの地域でも可能なのではないでしょうか。まだまだＰＲ不足ですし、皆さんに考え方を分かっていただければ、地域の方たちに頑張ってもらう活力になると思います。いまも全国各地でプレゼンテーションはしていますが、もし出てこいというならば我々のメンバーがうかがってご説明したいと考えています。皆さんのご協力をお願いいたします。

図2　発育・発達に合わせた一貫指導



スコアールーム ①

平成15年度第11回全日本ハンドボールマスターズ大会

開催期日：平成15年7月25日(金)、26日(土)、27日(日)
会　　場：宮崎県体育館・宮崎市総合体育館・宮崎学園高等学校体育館

【男　子】

■男子順位決定型（リーグ戦）

▽龍リーグ

オールドフェイス　17（8－5、9－5）10　徳山クラブ
オールドフェイス　25（13－4、12－5）9　熊本オールスターズ
神楽坂フェニックス　16（9－3、7－9）12　熊本オールスターズ
徳山クラブ　13（7－4、6－8）12　神楽坂フェニックス
オールドフェイス　18（10－5、8－5）10　神楽坂フェニックス
徳山クラブ　17（11－4、6－7）11　熊本オールスターズ

＜順　位＞

1位　オールドフェイス　3勝
2位　徳山クラブ　2勝1敗
3位　神楽坂フェニックス　1勝2敗
4位　熊本オールスターズ　3敗

▽虎リーグ

WAKUNAGA　19（10－4、9－5）9　下松クラブ
WAKUNAGA　40（13－9、27－15）24　海自桜錨会
生駒オークス　13（7－8、6－5）13　海自桜錨会
生駒オークス　16（12－6、4－8）14　下松クラブ
WAKUNAGA　19（11－4、8－7）11　生駒オークス
海自桜錨会　19（9－5、10－6）11　下松クラブ

＜順　位＞

1位　WAKUNAGA　3勝
2位　生駒オークス　1勝1分1敗
〃　海自桜錨会　1勝1分1敗
4位　位下松クラブ　3敗

■男子順位決定型（リーグ戦・順位決定戦）

▽各組4位

下松クラブ　15（6－9、9－4）13　熊本オールスターズ

▽各組3位

神楽坂フェニックス　15（11－7、4－5）12　生駒オークス

▽各組2位

海自桜錨会　14（8－3、6－6）9　徳山クラブ

▽各組1位

オールドフェイス　18（8－9、10－7）16　WAKUNAGA

＜最終順位＞

優勝　オールドフェイス
2位　WAKUNAGA
3位　海自桜錨会

■男子交流型

三景　21（10－3、11－7）10　泉丘会ヤンガーズ
日南クラブ　11（6－4、5－5）9　泉丘会ヤンガーズ
A．T．F　21（8－5、13－4）9　日南クラブ
A．T．F　16（8－3、8－6）9　福岡クラブ
三景　19（11－2、8－7）9　福岡クラブ
オールド愛媛　14（7－3、7－5）8　久留米高牟礼クラブ
久留米高牟礼クラブ　12（5－4、7－3）7　葵クラブ
泉丘会ドリーム　16（5－8、11－4）12　葵クラブ
泉丘会ドリーム　13（8－8、5－5）13　小林クラブ
オールド愛媛　16（12－7、4－5）12　小林クラブ
兵庫県選抜　19（11－3、8－7）10　はがくれクラブ
兵庫県選抜　26（12－3、14－1）4　北郷クラブ
宮崎フェニックス　21（11－7、10－8）15　北郷クラブ
宮崎フェニックス　14（7－5、7－7）12　はがくれクラブ
宮崎フェニックス　16（12－5、4－6）11　福岡クラブ
三景　13（7－6、6－6）12　小林クラブ
泉丘会ヤンガーズ　14（6－7、8－4）11　葵クラブ
泉丘会ドリーム　14（8－6、6－6）12　A．T．F
はがくれクラブ　16（6－3、10－5）8　日南クラブ
オールド愛媛　16（9－1、7－1）2　北郷クラブ
福岡クラブ　13（8－4、5－8）12　小林クラブ
兵庫県選抜　19（9－4、10－5）9　三景
兵庫県選抜　20（12－5、8－5）10　宮崎フェニックス
A．T．F　12（8－2、4－4）6　葵クラブ
泉丘会ドリームス　16（8－5、8－8）13　久留米高牟礼クラブ
泉丘会ヤンガーズ　13（6－5、7－7）12　久留米高牟礼クラブ
はがくれクラブ　14（6－6、8－3）9　北郷クラブ
オールド愛媛　20（10－4、10－6）10　日南クラブ

【女　子】

■女子順位決定型（リーグ戦）

スズッキーズ　15（5－4、10－6）10　ぽっけもん
マミーズ　14（5－5、9－5）10　ぽっけもん
マミーズ　16（7－6、9－4）10　FCC
風見鶏ファミリー　15（4－6、11－3）9　FCC
風見鶏ファミリー　9（3－5、6－2）7　スズッキーズ
FCC　10（6－4、4－4）8　ぽっけもん
マミーズ　14（8－5、6－7）12　スズッキーズ
スズッキーズ　15（5－3、10－6）9　FCC
マミーズ　11（3－5、8－5）10　風見鶏ファミリー
風見鶏ファミリー　12（5－1、7－2）3　ぽっけもん

＜最終順位＞

優勝　マミーズ　4勝
2位　風見鶏ファミリーズ　3勝1敗
3位　スズッキーズ　2勝2敗
4位　FCC　1勝3敗
5位　ぽっけもん　4敗

■女子交流型

松林ファミリー　11（6－7、5－4）11　モッピークラブ
甲斐クラブ　16（7－3、9－3）6　松林ファミリー
甲斐クラブ　16（7－3、9－4）7　中部ドリームス
モッピーズ　10（5－3、5－1）4　中部ドリームス
熊本OGクラブ　10（5－5、5－3）8　みやざきコスモス
武蔵野クラブ　12（2－5、10－4）9　みやざきコスモス
瀬戸内レディース　15（9－3、6－5）8　武蔵野クラブ
瀬戸内レディース　19（10－2、9－3）5　熊本OGクラブ
瀬戸内レディース　18（10－5、8－4）9　モッピーズ
武蔵野クラブ　10（5－1、4－5）6　松林ファミリー
武蔵野クラブ　12（4－3、8－8）11　モッピークラブ
瀬戸内レディース　20（10－4、10－0）4　松林ファミリー
熊本OGクラブ　10（5－3、5－7）10　中部ドリームス
中部ドリームス　10（3－3、7－4）7　みやざきコスモス
甲斐クラブ　15（9－2、6－3）5　みやざきコスモス
甲斐クラブ　14（7－3、7－5）8　熊本OGクラブ

スコアルーム ②

第16回全国小学生ハンドボール大会

開催期日：平成15年8月1日(金)、2日(土)、3日(日)
会　場：京田辺市田辺中央体育館、同志社大学京田辺キャンパス体育館、京都府立田辺高等学校体育館

【男　子】

■最終順位
優　勝　神森小学校ハンドボール部（沖縄県）
準優勝　玉名町小学校（熊本県）
第3位　松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（開催地）

■Aブロック
①スポーツ少年団守谷クラブ（茨城県）
②日吉小ハンドボールクラブ（長崎県）
③愛媛ジュニアーズ（愛媛県）
茨城県　16－9　長崎県
茨城県　24－1　愛媛県
長崎県　19－4　愛媛県

■Bブロック
①神森小学校ハンドボール（沖縄県）
②甲田ハンドボール部（広島県）
②富岡イーグルス（群馬県）
④貝塚バーディーズ（大阪府）
沖縄県　19－12　群馬県／沖縄県　13－8　広島県／
広島県　20－4　大阪府／群馬県　24－6　大阪府

■Cブロック
①松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（開催地）
②木田ブルーロケッツ2000（福井県）
③総社クラブジュニア（岡山県）
開催地　11－8　福井県／開催地　15－11　岡山県／
福井県　15－10　岡山県

■Dブロック
①日知屋東小ハンドボール部（宮崎県）
②堀川スポーツ少年団（富山県）
③一つ輪・安堵の里ハンドボールクラブ（奈良県）
宮崎県　11－8　富山県／宮崎県　18－5　奈良県／
富山県　11－5　奈良県

■Eブロック
①明野北ハンドボール少年団（大分県）
②S.H.C鶴巻（東京都）
③神戸ラスカルズ（兵庫県）
大分県　14－10　東京都／大分県　19－8　兵庫県／
東京都　14－11　兵庫県

■Fブロック
①田辺東小学校ハンドボールチーム（京都府）
②東海ハンドボールスクール（愛知県）
③塩山ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）
京都府　9－7　愛知県／京都府　17－7　山梨県／
愛知県　17－11　山梨県

■Gブロック
①笹川ハンドボール少年団（三重県）
②高盛ハンドボールクラブ（北海道）
③香川町ハンドボールスポ少オリーブくん（香川県）
三重県　18－9　北海道／三重県　17－5　香川県／
北海道　19－10　香川県

■Hブロック
①玉名町小学校（熊本県）
②LITTLEGUTS（山口県）
③和歌山市ハンドボール教室（和歌山県）
熊本県　23－9　山口県／熊本県　21－7　和歌山県／
山口県　17－13　和歌山県

■決勝トーナメント1回戦
神森小学校　23－18　守谷クラブ
松井ヶ丘小学校　14－10　日知屋東小
田辺東小学校　14－13　明野北
玉名町小学校　22－8　笹川

■準決勝
神森小学校　12－10　松井ヶ丘小学校
玉名町小学校　13－5　田辺東小学校

■3位決定戦

松井ヶ丘小学校　18－11　田辺東小学校

■決勝戦

神森小学校　19－13　玉名町小学校

【女　子】

■最終順位

優　勝　日岡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）

準優勝　松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（開催地）

第3位　当尾小学校（熊本県）

■aブロック

①真弓クラブ（奈良県）

②牧港小学校ハンドボールクラブ(沖縄県)

③富岡ラビッツ（群馬県）

④高山ミニハンドボールスクール（岐阜県）

奈良県　5－4　沖縄県／奈良県　9－4　岐阜県／

奈良県　13－6　群馬県／沖縄県　12－11　岐阜県／

沖縄県　16－12　群馬県／群馬県　16－9　岐阜県

■bブロック

①上庄スポーツ少年団（富山県）

②笹川ハンドボール少年団（三重県）

③香川町ハンドボールスポ少オリーブちゃん（香川県）

富山県　5－4　沖縄県／富山県　31－2　香川県／

三重県　21－7　香川県

■cブロック

①延岡東ハンドボールクラブ(宮崎県)

②安居ブルーサンダースポーツ少年団（福井県）

③甲田ハンドボール部（広島県）

宮崎県　11－10　福井県／宮崎県　20－4　広島県／

福井県　16－6　広島県

■dブロック

①松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（開催地）

②小金井ハンドボールクラブ（東京都）

②岩国レインボーキッズ（山口県）

開催地　11－10　東京都／開催地　20－4　山口県／

東京都　21－8　山口県

■eブロック

①田辺東小学校ハンドボールチーム（京都府）

②東海ハンドボールスクール（愛知県）

③塩山ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）

京都府　14－4　愛知県／京都府　17－2　山梨県／

愛知県　7－5　山梨県

■fブロック

①当尾小学校（熊本県）

②大浜キッズ（大阪府）

③芦別バニーズスポーツ少年団（北海道）

熊本県　21－9　大阪府／熊本県　32－2　北海道／

大阪府　21－8　北海道

■gブロック

①日岡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）

②瀬戸オールスターズジュニア（岡山県）

③明石ジュニア（兵庫県）

大分県　16－12　岡山県／大分県　25－4　兵庫県／

岡山県　14－6　兵庫県

■決勝トーナメント1回戦

上庄スポ少　7－6　真弓クラブ

松井ヶ丘小学校　16－8　延岡東

当尾小学校　16－8　田辺東小学校

日岡スポ少　23－8　牧港小学校

■準決勝

松井ヶ丘小学校　14－10　上庄スポ少

日岡スポ少　14－13　当尾小学校

■3位決定戦

当尾小学校　20－12　上庄スポ少

■決勝戦

日岡スポ少　17－14　松井ヶ丘小学校

スコアールーム ③

平成15年度全国中学校体育大会・第32回全国中学校ハンドボール大会結果

開催期日：平成15年年８月17日(日)、18日(月)、19日(火)、20日(水)
会　　場：函館市民体育館、函館大学体育館

【最終順位】

■男　子

優　勝　浦添市立神森中学校（沖縄県）
準優勝　浦添市立仲西中学校（沖縄県）
第３位　名古屋市立汐路中学校（愛知県）
　　　　名古屋市立御幸山中学校（愛知県）

■女　子

優　勝　堺市立上野芝中学校（大阪府）
準優勝　名古屋市立香流中学校（愛知県）
第３位　氷見市立南部中学校（富山県）
　　　　京田辺市立大住中学校（京都府）

【優秀選手】

■男　子

玉　城　聖　也（神森・沖縄県）
砂　川　慶　成（神森・沖縄県）
上　原　健　治（神森・沖縄県）
前　里　亮　太（仲西・沖縄県）
東　　　弘　起（仲西・沖縄県）
山　口　佑　樹（汐路・愛知県）
小　口　智　之（御幸山・愛知県）

■女　子

岡　本　真　季（上野芝・大阪府）
山　田　優香里（上野芝・大阪府）
浅　谷　亜　樹（上野芝・大阪府）
矢　田　侑　実（香流・愛知県）
井　芹　祥　子（香流・愛知県）
中　井　美　希（氷見南部・富山県）
後　藤　千渡世（大住・京都府）

【男　子】

■１回戦

久　　世（京都府）25（15－５、10－６）11　戸　　倉（北海道）
大　　淀（大阪府）35（18－14、17－15）29　総 社 西（岡山県）
水海道西（茨城県）24（11－９、13－12）21　岐　　陽（山口県）
御 幸 山（愛知県）27（13－９、14－13）22　けやき台（茨城県）

■２回戦

中　　山（岐阜県）31（14－12、17－14）26　鹿　　骨（東京都）
明　　野（大分県）22（10－12、12－８）20　氷見北部（富山県）
仲　　西（沖縄県）27（18－８、９－10）18　綾　　南（香川県）
西　　條（富山県）41（23－８、18－15）23　月　　寒（北海道）
神　　森（沖縄県）33（18－10、15－12）22　久　　世（京都府）
汐　　路（愛知県）24（11－７、13－８）15　大　　淀（大阪府）
水海道西（茨城県）25（13－11、12－13）24　湯 沢 南（秋田県）
御 幸 山（愛知県）20（10－10、10－７）17　大体大附属（大阪府）

■準々決勝

神　　森（沖縄県）27（16－７、11－13）20　中　　山（岐阜県）
汐　　路（愛知県）27（13－３、14－６）９　明　　野（大分県）
仲　　西（沖縄県）29（13－10、16－９）19　水海道西（茨城県）
御 幸 山（愛知県）35（20－15、15－15）30　西　　條（富山県）

■準決勝

神　　森（沖縄県）23（12－６、11－10）16　汐　　路（愛知県）
仲　　西（沖縄県）32（11－９、21－13）22　御 幸 山（愛知県）

■決　勝

神　　森（沖縄県）31（14－９、17－15）24　仲　　西（沖縄県）

【女　子】

■１回戦

上 野 芝（大阪府）39（17－６、22－４）10　凌　　雲（北海道）
吉川中央（埼玉県）24（12－７、12－16）23　稙 田 西（大分県）
東久留米西（東京都）28（14－10、14－13）23　十　　三（富山県）
住　　吉（山口県）21（６－13、15－７）20　浦　　西（沖縄県）

■２回戦

港　　川（沖縄県）27（14－10、13－10）20　甲　　田（広島県）
氷見南部（富山県）22（11－３、11－８）11　大久保北（兵庫県）
朝　　明（三重県）32（22－３、10－９）12　臼　　尻（北海道）
香　　流（愛知県）22（12－５、10－７）12　羽　　後（秋田県）
上 野 芝（大阪府）16（９－６、７－９）15　吹　　上（栃木県）
川　　名（愛知県）23（10－６、13－８）14　吉川中央（埼玉県）
大　　住（京都府）21（８－７、13－12）19　東久留米西（東京都）
住　　吉（山口県）30（14－８、16－７）15　香　　東（香川県）

■準々決勝

上 野 芝（大阪府）22（10－12、12－９）21　港　　川（沖縄県）
氷見南部（富山県）19（11－10、８－６）16　川　　名（愛知県）
大　　住（京都府）11（５－６、６－３）９　朝　　明（三重県）
香　　流（愛知県）17（９－７、８－５）12　住　　吉（山口県）

■準決勝

上 野 芝（大阪府）21（10－10、11－８）18　氷見南部（富山県）
香　　流（愛知県）14（５－２、９－６）８　大　　住（京都府）

■決　勝

上 野 芝（大阪府）20（９－８、11－５）13　香　　流（愛知県）

パッシブプレーに関する通達について

競技運営部　審判部　指導普及部

2003年7月25日付でＩＨＦ／ＰＲＣより、下記のごとく競技規則変更について通達がまいりました。

ＩＨＦではこれを、8月に行われるマケドニアでの女子ジュニアとブラジルでの男子ジュニアから適用すると通達してまいりました。ＩＨＦが8月から適用するということで、アテネオリンピックアジア予選も当然適用されることになると思います。

日本国内大会では、**10月1日より適用する**といたします。

（競技規則解釈4「予告合図の方法」の）第3段落の記述を、次のように変更する。

1度の攻撃（これはボールを所持したときから始まる）において、1回しか予告合図を出してはならない。

シュート（7ｍスローや直接ゴールを狙ったフリースローも含める）をして攻撃が終わったが、ボールはゴールキーパーやゴールポスト・クロスバーに当たって跳ね返り、そしてこれまで攻撃していたチームがそのボールを再び所持した場合、組み立て局面から新たな攻撃が始まる。

予告合図が出されている状況で、防御側のプレーヤーやチーム役員が競技規則違反やスポーツマンシップに反する行為をし、競技規則第16条により段階罰を適用された場合も、同様に新たな攻撃が始まることになる。

「解説」

これは、完全なシュートとみなされる場合に適用されるものであって、シュートがディフェンスのブロックにあって、フィールドに落ちたり、ゴールエリア内でとまってしまうような場合は対象にならない。この場合は、シュートしたチームが再びボールを獲得したとしても、パッシブシグナルは継続されることになる。

小学校におけるハンドボールの実践研究推進校（平成15、16年度）決定

標記実践研究推進校の募集に際し、全国より多くの応募がありました。学校体育ハンドボール検討委員会で検討し、以下の19校が実践研究推進校（平成15、16年度）に決定いたしました。

（財）日本ハンドボール協会選定実践研究推進校一覧（敬称略）

1　田野畑村立島越小学校［岩手県］
　学校長：千葉　克子　　授業担当者：中島　和孝
2　秋田大学教育文化学部附属小学校［秋田県］
　学校長：長沼　雅彦　　授業担当者：木谷　光男
3　湯沢市立湯沢東小学校［秋田県］
　学校長：佐々木　武　　授業担当者：佐々木　敏
4　尾花沢市立荻袋小学校［山形県］
　学校長：佐藤　保　　授業担当者：植木　昌喜
5　鶴岡市立加茂小学校［山形県］
　学校長：天野　卓夫　　授業担当者：鈴木　昭彦
6　岩井市立岩井第二小学校［茨城県］
　学校長：竹林　俊行　　授業担当者：野口美千代
7　東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校［東京都］
　学校長：福地　昭輝　　授業担当者：内田　雄三
8　川崎市立南生田小学校［神奈川県］
　学校長：大瀧　正弘　　授業担当者：野原　博人
9　富山市立堀川小学校［富山県］
　学校長：恒田　勉　　授業担当者：谷本　和信
10　名古屋市立杉村小学校［愛知県］
　学校長：西尾　博史　　授業担当者：吉田　明伯
11　名古屋市立南陽小学校［愛知県］
　学校長：橋本　邦弘　　授業担当者：吉田　貴之
12　堺市立八田荘小学校［大阪府］
　学校長：本間　猛　　授業担当者：南さか利和
13　香川町立大野小学校［香川県］
　学校長：松本　育男　　授業担当者：伊賀　和代
14　高知市立横浜新町小学校［高知県］
　学校長：小橋　光生　　授業担当者：山崎　功一
15　佐世保市立白南風小学校［長崎県］
　学校長：川島　達也　　授業担当者：重村誠一郎
16　合志町立南ケ丘小学校［熊本県］
　学校長：田中佐和子　　授業担当者：有内　弘
17　大津町立大津東小学校［熊本県］
　学校長：奴田原和男　　授業担当者：富永　泰寛
18　延岡市立南方小学校［宮崎県］
　学校長：南澤　辰雄
　授業担当者：片山　真貴、楠原　洋子、平山　肥見、高橋　公一、島　洋一郎
19　岡山市立大野小学校　［岡山県］
　学校長：矢吹　賢司　　授業担当者：信原　悦治



平成15年度第1回評議員会

日　時　平成15年6月21日（土）
場　所　ＮＴＴ麻布セミナーハウス
出席者　評議員35名、（日本協会）
渡邉会長、大西専務理事、
常務理事８名、監事２名、
参事１名、事務局５名

議事に先立ち、今年度国体開催の静岡県、わかふじ国体実行委員会より挨拶がなされた。

審議事項

1.平成14年度事業報告書
承認された。

2.平成14年度決算書
平成14年度収支決算書について、次のように報告された。
○収入
・分担金…増額についての説明。
・補助金…ＪＯＣからの補助が増額。
・事業収入は増収。登録金の減額、協会役員登録金の増額、Ｊ級の登録金増額などの報告があった旨報告。
・寄付金…㈱エスエスケイからの寄付。
・特別会計からの繰り入れに関して、日本リーグからの繰入金のアテネ予選の積立金とした。
・収入合計の増額による決算であった。
○支出
・人件費の増額、運営費の節減、役員旅費の増額。
・普及、審判、競技運営など節減、競技力向上はオーバー、マーケティング委員会の増額は、会議費・旅費の増加による。
・特定預金積立は、アテネ予選に向けての積み立てに充てたため、当初予算をオーバーした。
・予備費は、アテネ予選関連経費として一部執行した。
・次期繰り越しの減額。
・委託事業、助成事業、単独事業、アテネ強化など支出説明があった。
以上、適正であるとの監査報告が大野監事よりあった。
平成14年度事業報告書及び決算書について承認された。

3.平成15年度事業予算（１次補正）
平成15年度事業予算（１次補正）について、次のように説明された。
○収入
・登録金は、日本リーグチーム数の減少により、分担金などの減少が報告された。
○支出
・国際関係事業費として東アジア大会の設立準備金として積み立てた。
以上、承認された。

4.新理事選任の件
平岡秀雄氏が常務理事（総務、国際）として満場一致で選任された。

報告事項

1.プロジェクト21について
日本協会として、普及を推進し、都道府県の市町村にある様々なチームを起点として、派生的に多くのチーム作りの必要性が述べられた。

2.新評議員名簿の件
平成15、16年度の評議員の名簿が示された。

3.ハンドボールフォーラムについて
日本リーグの活性化と、地域クラブの育成のためのフォーラムを開催することが説明された。

4.岡山ジャパンオープンについて
開催地の要請として、国体リハーサル大会は女子のみの大会で開催する。男子のジャパンオープンは、国体開催会場以外の総社市、倉敷市で開催するとの報告があった。

5.「がんばれハンドボール10万人会」サポート会について
会員募集のノウハウは都道府県協会オリジナルを優先させ、主体的に活動していく方向が確認された。
未更新者の更新率を上げる必要性が述べられた。

6.アテネオリンピックアジア予選について
６月28日神戸で実行委員会が開催されることを中心に進捗状況の報告があった。

7.第９回ヒロシマ国際大会の件
ＳＡＲＳの深刻な影響が懸念されるため中止とする、旨報告があった。

8.ワールドゲームズ・ビーチハンドボール大会について
次回ドイツ大会に於いて、秋田大会に続き公開競技として開催されることが決定。

9.ムササビプラクティスシャツの販売体制について
各種グッズの作成も考えられるが、当面Ｔシャツをメインに、夏の各種大会で販売していく方針が説明された。

10.第６回ハンドボール研究集会要項について
秋田県で実施する。ハンドボール関係者以外の小学校の先生方が多数参加している。

11.強化部報告
2003年女子のジュニア選手権への参加について、他の報告があった。
代表候補の名簿、代表関係の強化日程が報告された。
ユースエリートの選出について説明がなされた。

12.「第１回日本車椅子ハンドボール大会」について
平成16年１月31日（土）、２月１日（日）に姫路市で開催される大会の説明がなされた。

13.その他
各評議員から、情報の提供や要望があり、意見が交わされた。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【北海道】小笠原久美子【宮城】大河原浩気【茨城】中馬睦子【群馬】高橋　潔【埼玉】伊藤　良【千葉】藤本信幸、鈴木秀義【東京】勝　繁夫、小林由貴美、大塚文雄、小林美輪【山梨】栗原富貴子、天川正次【富山】大森さやか、嶋田ひろみ【愛知】柴田利実、笹野邦雄【岐阜】中島明美、安田浩行、安田市子【京都】吉田博二【大阪】宇野佳子、望月伸三郎、亀石正人、進藤義幸、林　千恵【兵庫】柿木國夫、新坂智子、山口登喜江【奈良】中村　治【岡山】藤井俊朗【広島】冨永秀雄、青戸克好、原　さおり、河本幸枝、広住　誠、田中壮二、両徳良樹、河本幸男、入本富男、岩本真枝【山口】西川精二【愛媛】真鍋篤正【福岡】伊藤康雄【佐賀】久保田秀光【長崎】藤山聖子、新井善文【宮崎】有田二郎、巣立勝弘

「ハンドボール研究」第5号が刊行されました。

・販売価格　　1,200円（送料込み）
・申し込み先　　日本ハンドボール協会　TEL03-3481-2361　fax03-3481-2367
・申し込み方法　上記宛、必要事項（注文冊数、購入希望者名、送付先（〒、住所、TEL）を明記の上、現金書留にてお申し込み下さい。
・主な内容

［講　義］ハンドボールと共に　角　紘昭（名古屋市立中川小学校校長）

［講義および実技研修］小学生のためのハンドボールの学習指導　大西武三（筑波大学教授）

［授業提案］

みんなでハンドボールをうまくなろう！　楽しもう！　プレーアブルになろう！
　木谷光男（秋田大学教育文化学部附属小学校）

合言葉は「プレーアブル！」いきいきハンドボール
　京極　努（秋田市立日新小学校）

［講　演］学校体育におけるボール運動のカリキュラムと指導の在り方　高橋健夫（筑波大学教授）

その他、論文・実践報告など

【10月の行事予定】

【大会】
10月11日(土)　日本リーグ開幕
10月26日(日)～30日(木)　国民体育大会

【会議】
10月26日(日)　全国理事会
10月27日(月)　常務理事会

HAND BALL CONTENTS Oct

（登録チームの購読料は登録料に含む）

2003コートの主役



PKCH3-AD　　¥4,600

検定球3号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・男子用
天然皮革

PKCH2-AD　　¥4,500

検定球2号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・女子用・中学校用
天然皮革



MIKASA®

http://www.mikasasports.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四四四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十五年九月二十六日印刷 平成十五年十月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一 電話 代表 三四八一―二三六一 振替 〇〇二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円